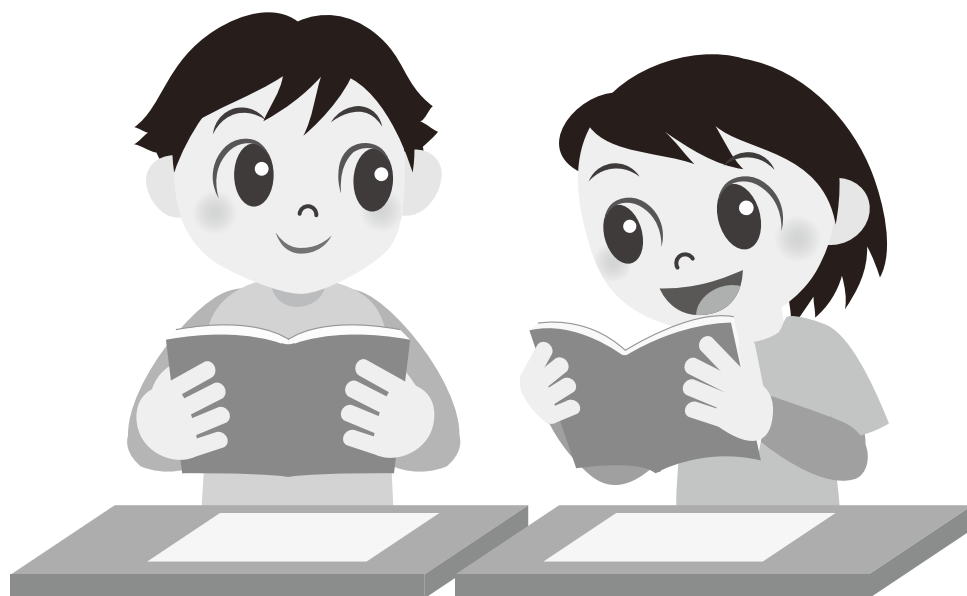


学習評価を生かした 授業改善, 授業づくりのための ハンドブック

[小学校]



平成 23 年 3 月

島根県教育委員会

はじめに

いよいよ平成 23 年 4 月から新しい小学校学習指導要領が全面実施になります。各小学校では、平成 21、22 年度の 2 年間の移行期間において、新しい学習指導要領の趣旨等の理解を図り、円滑な実施のための準備を進めていただくとともに、一部については、先行して実施していただいているところ です。

平成 20 年 3 月に告示された新しい学習指導要領において、指導計画作成等に当たって配慮すべき事項の一つとして、「言語活動の充実」があります。平成 18 年度から実施している島根県学力調査及び平成 19 年度から実施している全国学力・学習状況調査において、島根県の児童は「思考力・判断力・表現力」に課題があることが浮き彫りになっています。この課題を解決するためには、日頃から「言語活動の充実」を踏まえた授業を展開する必要があります。本ハンドブックは、「言語活動の充実」を図る授業の在り方を中心に作成しました。

また一方、平成 22 年 5 月に文部科学省から示された新しい学習指導要領の各教科等の評価の観点に基づき、評価規準の設定を適切に行い、学習評価を効果的に活用した授業改善、授業づくりを進めることが必要です。評価のために評価を行うのではなく、学習指導要領で示された目標及び設置者や各学校が設定する評価規準に照らして、その実現の状況を適切に把握し、学習指導の改善を図っていただきたいと思ひます。

本ハンドブックは、「言語活動の充実」及び「学習評価」について基礎的な理解を深めるとともに、各教科等の指導及び学習評価の在り方の理論と実践について参考となる内容を掲載しています。各教科等の指導事例には、「指導のポイント」及び「評価のポイント」を具体的に示し、指導案作成及び授業実践の際の参考となるようにしています。

本県の児童が学習指導要領の理念である「生きる力」をしっかりと身に付けることができるよう、本ハンドブックの積極的な活用を図っていただきたいと願っております。

最後に、本ハンドブック作成に際し、事例等を提供して下さった関係の皆様に対し、心からお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

島根県教育庁義務教育課長

秋利 幸秀

目 次

・ はじめに	
1 これからの学習指導，学習評価について	1
2 学習評価の意義・目的	5
3 観点別学習状況の評価の在り方	6
1) 新学習指導要領を踏まえた観点の設定	
2) 学校教育法及び小学校学習指導要領で規定された学力の3つの要素と評価の観点との関係	
3) 「関心・意欲・態度」	
4) 「思考・判断・表現」	
5) 「技能」	
6) 「知識・理解」	
4 学習評価を生かした指導の工夫	8
1) 「指導と評価の計画」の立案	
2) 学習評価を生かした具体的な指導の手だて	
3) 児童，保護者等による授業評価を生かした授業改善	
5 学習評価の流れ	10
6 評価規準作成の具体的な手順	11
7 各教科等における指導と評価	13
・ 国語	14
・ 社会	18
・ 算数	22
・ 理科	26
・ 生活	32
・ 音楽	36
・ 図画工作	42
・ 家庭	46
・ 体育	50
・ 道徳	54
・ 外国語活動	58
・ 総合的な学習の時間	62
・ 特別活動	66
8 指導要録の改善	70
1) 評定	
2) 外国語活動	
3) 総合的な学習の時間	
4) 特別活動	
5) 行動の記録	
6) 総合所見及び指導上参考となる諸事項	
9 効果的・効率的な学習評価	72
1) ポートフォリオによる評価	
2) パフォーマンス評価	
10 参考資料ホームページアドレス	73

1

これからの学習指導, 学習評価について

○ 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）
第 30 条（略）

②前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、**基礎的な知識及び技能**を習得させるとともに、**これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力**をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

○ 小学校学習指導要領（平成 20 年文部科学省告示 第 27 号）
第 1 章 総則 第 1 教育課程編成の一般方針

1（略）

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、**基礎的・基本的な知識及び技能**を確実に習得させ、**これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力**をはぐくむとともに、**主体的に学習に取り組む態度**を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

2（略）

3（略）

平成 19 年の学校教育法の改正及び平成 20 年に告示された新しい学習指導要領により、**学力の 3 要素**が規定されました。

このようにこれからの学習指導においては、

基礎的・基本的な知識・技能 を習得させる

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 をはぐくむ

主体的に学習に取り組む態度 を養う

ことが求められます。

一方、島根県においては、島根県学力調査及び全国学力・学習状況調査により、

思考力・判断力・表現力の育成

に課題があることが明らかになっています。今後、島根県においては、思考力・判断力・表現力等を確実に高めるために、各教科等の指導の中で、

基礎的・基本的な知識・技能を習得させる

とともに、観察・実験やレポートの作成や推敲、論述、発表・討論といったそれぞれの教科等に即した

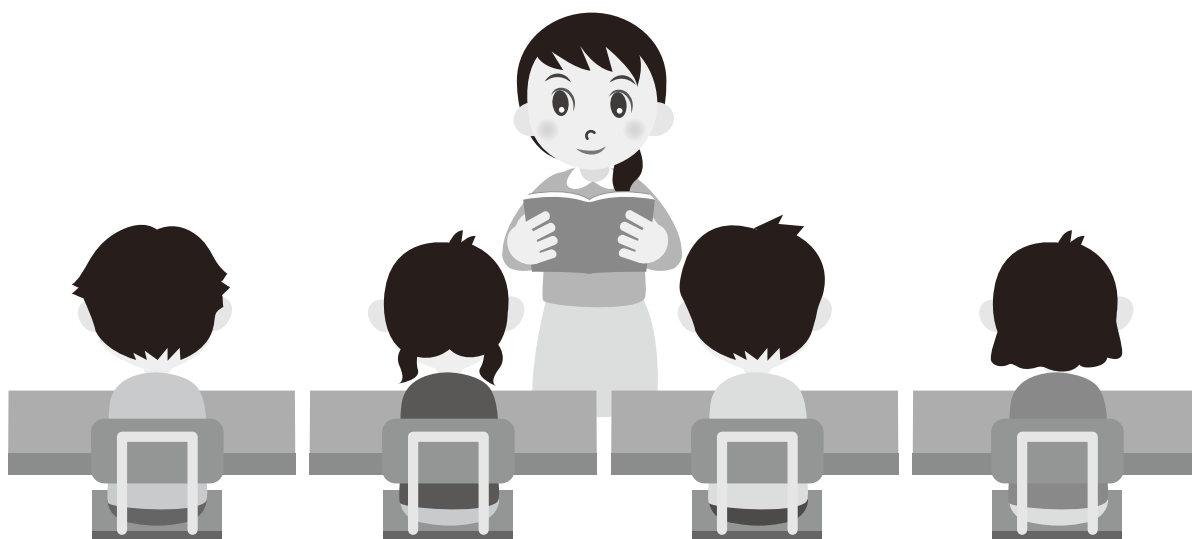
知識・技能を活用する

学習活動を充実させる必要があります。そしてこれらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力であり、各学校においては、国語科のみならず、すべての教科等で

言語活動を充実する

ことが求められています。

言語活動の充実を図る際は、新しく設定された学習評価の観点「思考・判断・表現」等を中心に適切な評価規準を設け、指導の充実を図ることが重要です。



学習評価についての基礎クイズにチャレンジしてみましょう !!

- Q1** なぜ学習評価を行うのでしょうか。
- Q2** 学習指導要領改訂に伴う学習評価の改善に関する3つの基本的な考え方を説明してください。
- Q3** 新しい学習評価における4つの観点をあげてください。
- Q4** これまでの「思考・判断」が新しく「思考・判断・表現」に変更された趣旨は何ですか。
- Q5** 「評価規準」とは何ですか。
- Q6** なぜ「評価規準」を設定するのでしょうか。
- Q7** 各学校において学習評価をどう進めたらよいのでしょうか。また、進めるにあたっての留意点は何でしょうか。

A1

学習評価を進めることで

- ① **学習指導の在り方**を見直す
- ② **個に応じた指導**の充実を図る
- ③ 学校における教育活動を**組織として改善**する

ことができるからです。

A2

- ① これまでの**目標に準拠した学習評価（いわゆる絶対評価）**を引き続き、着実に実施すること。
- ② **新学習指導要領の趣旨や改善事項等**を適切に反映すること。
- ③ **学校や設置者の創意工夫**を一層生かすこと。

A3

評価の観点は

「**関心・意欲・態度**」, 「**思考・判断・表現**」, 「**技能**」, 「**知識・理解**」の4つです。

A4

「**思考・判断・表現**」の観点のうち「**表現**」については、**基礎的・基本的な知識・技能**を活用しつつ、**各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価すること**を意味しています。

つまり「**表現**」とは、これまでの「**技能・表現**」で評価されていた「**表現**」ではなく、**思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童がどのように表出しているか**を内容としています。

A5

学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するためのよりどころです。学習指導に当たっては各教科の目標だけでなく、**領域や内容項目レベルの学習指導のねらい**が明確になっている必要があります。そして、**学習指導のねらいが児童の学習状況として実現された状態**を具体的に想定しておく必要があります。これが評価規準です。

A6

- ① 児童の**学習状況を判断**する際の目安が明らかになるからです。
- ② **指導と評価**を着実に実施することにつながるからです。

A7

- ① 学習評価をその後の**学習指導の改善**に生かすことです。
- ② 学校における**教育活動全体の改善**に結びつけることです。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要です。そのためには、
 - ア 評価規準を適切に設定する
 - イ 評価方法の工夫改善を進める
 - ウ 評価結果について教師同士で検討する
 - エ 実践事例を着実に継承していく
 - オ 授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図る等、校長のリーダーシップの下で、学校として、組織的・計画的に取り組むことが必要です。

2

学習評価の意義・目的

学習評価には

- 児童の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する

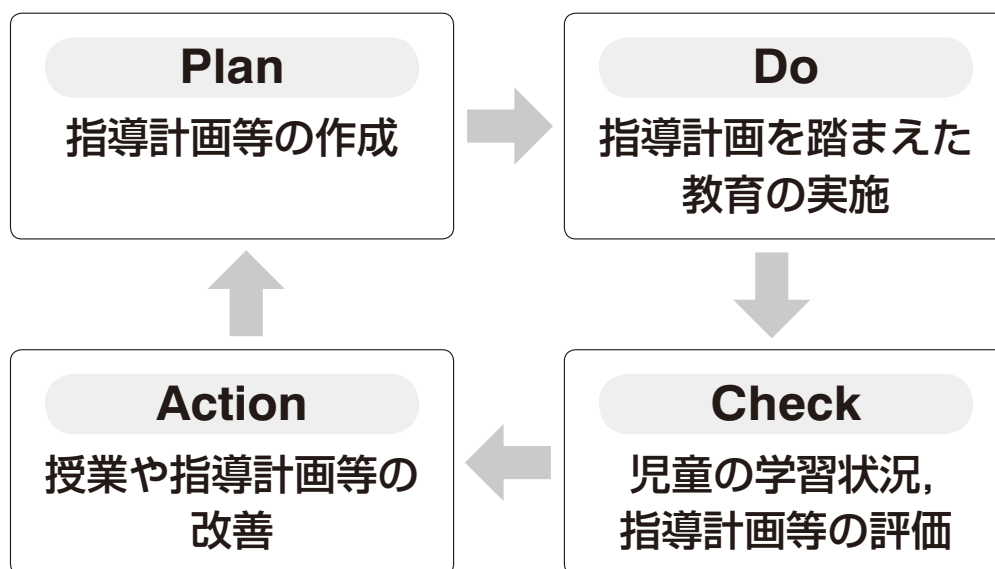
機能があり、
学習評価を通じて、

- 学習指導の在り方を見直すこと
- 個に応じた指導の充実を図ること
- 学校における教育活動を組織として改善すること

が重要です。

これがいわゆる「指導と評価の一体化」です。

そして、**学習指導と学習評価のPDCAサイクル**は、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要です。



【児童】 にとっては

自らの学習状況に気付き、その後の学習や発達・成長が促される契機となります。

【保護者】 にとっては

評価に先生の主観が入っているのではないかなどの不安を解消するとともに、学校における学習評価の在り方や児童の学習状況について把握する契機となります。

3

観点別学習状況の評価の在り方

1) 新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」が設定されました。
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能・表現」は「技能」に改められています。

新しい4つの観点は次の通りです。

「関心・意欲・態度」

「思考・判断・表現」

「技能」

「知識・理解」

2) 学校教育法及び小学校学習指導要領で規定された学力の3つの要素と評価の観点との関係

基礎的・基本的な知識・技能

→ 「技能」及び「知識・理解」で評価します。

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

→ 「思考・判断・表現」で評価します。

主体的に学習に取り組む態度

→ 「関心・意欲・態度」で評価します。

3) 「関心・意欲・態度」

各教科が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童が身に付けているかどうかを評価します。

- ※ 全国学力・学習状況調査等により我が国の児童の学習意欲に課題があることが指摘されています。本県の児童も島根県学力調査等から学習意欲に課題があると考えられます。
- ※ **他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係しています。**したがって「関心・意欲・態度」について学習評価を行い、児童が意欲的に取り組めるような授業を構成したり、継続的な授業改善を行ったりすることが重要です。
- ※ **授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意します。**評価方法及び評価場面の例として、授業や面談における発言や行動等、ワークシートやレポートの作成、発表があります。
- ※ 文部科学省の調査によると「関心・意欲・態度」を評価する際に教員の負担感等の課題があり、評価方法や評価時期等の工夫が必要です。

4) 「思考・判断・表現」

それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童が身に付けているかどうかを評価します。

- 新しい学習指導要領において、思考力・判断力・表現力等を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、**言語活動の充実**が求められたことから、新たに設定されました。
- **言語活動を中心とした表現に係る活動や児童の作品等と一体的に行うことを明確化**しています。
- 自ら取り組む課題を多面的に考察、観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだすなどの**基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、説明、論述、討論といった言語活動等**を通じて評価します。
- 思考・判断の結果だけでなく、**その過程を含めて**評価します。

5) 「技能」

各教科において習得すべき技能を児童が身に付けているかどうかを評価します。

- ※ 「思考・判断・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、従来の「技能・表現」を「技能」に改めています。
- ※ 教科によって違いはあるものの、基本的には、これまでの「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価します。

<例>

[算数] 式やグラフに表すこと

[理科] 観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理すること

6) 「知識・理解」

各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童が理解しているかどうかを評価します。



4

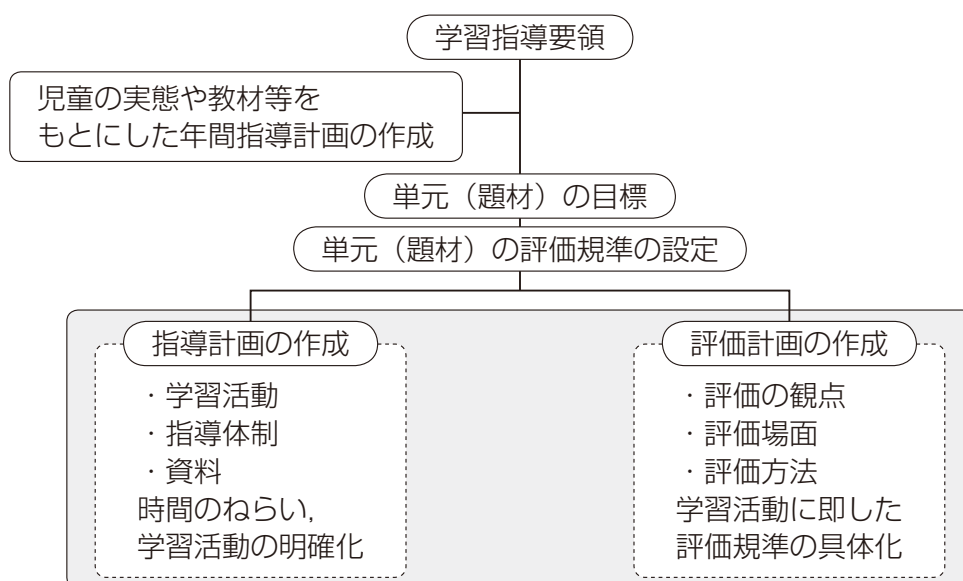
学習評価を生かした指導の工夫

1) 「指導と評価の計画」の立案

学習評価を生かした指導を行う際に大切なことは、「指導と評価の計画」に基づき、計画的・継続的に個に応じたきめ細かい指導を行うことです。

- ① 学習指導要領をもとに、児童の実態、教材等を勘案して**年間指導計画**を作成する。
- ② **単元（題材）の目標**を設定する。
- ③ **単元（題材）の評価規準**を設定する。
- ④ 学習活動、指導体制、資料等を検討し、**単元の指導計画**を作成する。
- ⑤ 学習活動に即して、**具体的な評価規準**を作成する。
- ⑥ ④、⑤をもとに、指導と評価の計画を作成する。

「指導と評価の計画」立案の流れ



※ 言語活動の充実を踏まえた指導計画の作成

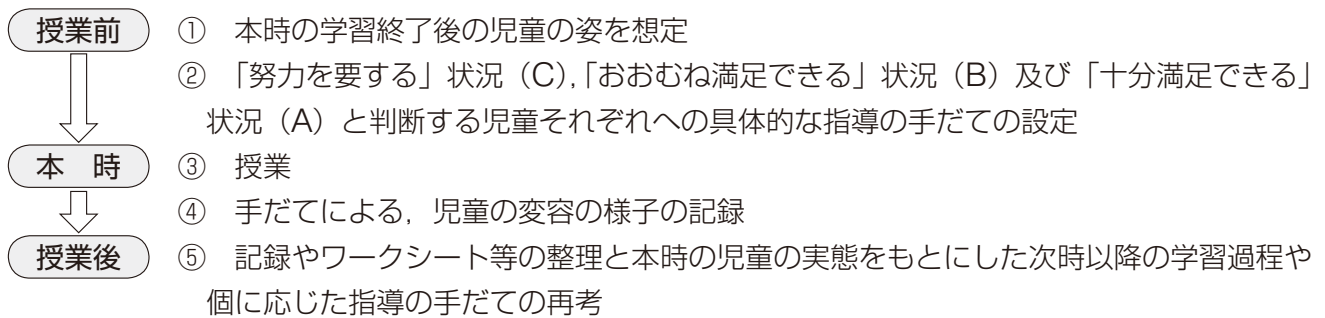
言語活動を充実することについて、校内のすべての教職員がその必要性を十分に理解し、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の展開や指導を改善することが大切です。

さらに、言語活動の充実を図った教科等の授業を実施する際は、どのような児童の姿を目指すのか、イメージを共有することが大切です。例えば、「自分の考えをもち、自分のことばで表現することができる子ども」というような児童の姿を設定することで、指導の目的が共通理解され、一層効果が高まります。イメージの共有ができれば、担当している学年や教科等においても、指導後の児童の姿を設定してみましょう。

例) 平安時代の文化と鎌倉時代の文化では、どちらが現代の我々の生活に影響を及ぼしているか、自分の考えをまとめ、わかりやすく述べている。(6年 社会)

2) 学習評価を生かした具体的な指導の手だて

毎時間、学習状況を的確に把握し、すべての児童を「おおむね満足できる」状況（B）以上にできるように指導します。



3) 児童、保護者等による授業評価等を生かした授業改善

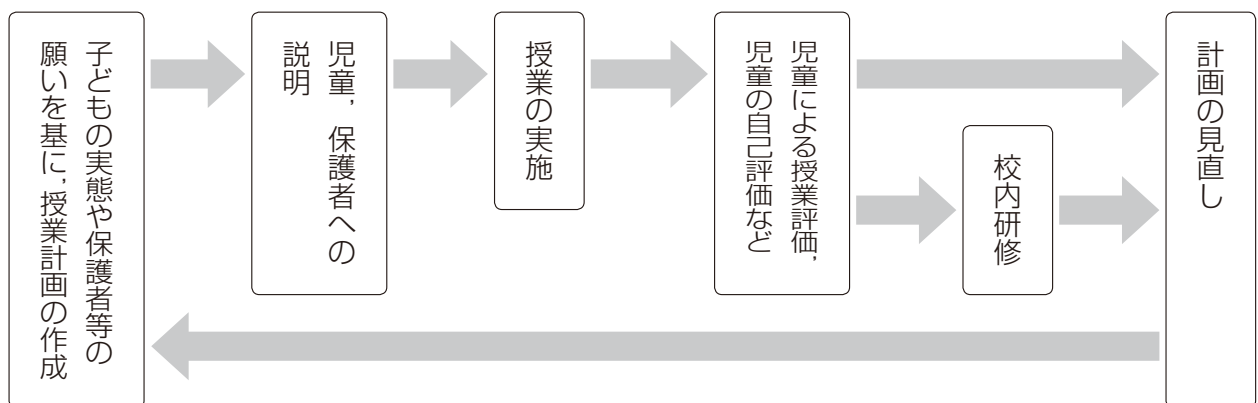
授業改善を進めるにあたっては、教師が自ら授業を振り返るだけでなく、児童や保護者等が授業をどうとらえているかを知り、それを授業改善に役立てることも大切です。県内の学校では、**児童、保護者等による授業評価や児童による自己評価**を活用しているところがあります。

<児童の自己評価の項目例>

- この授業でどんなことに興味をもちましたか。（関心）
- 積極的に授業に参加したり自ら課題を設定したりして学習できましたか。（意欲）
- この授業でどんなことを深く考えましたか。（思考）
- 理由をつけて自分の考えを述べることができましたか。（表現）
- ○○の内容について理解できましたか。（理解）

<児童による授業評価の項目例>

- ○○の内容の授業はわかりやすかったですか。（内容）
- 板書の文字の大きさは見やすく説明は聞きやすかったですか。（技術）
- 興味・関心をもてるように授業が工夫されていましたか。（工夫）
- 授業についての感想を自由に書いてください。（自由記述）



5

学習評価の流れ

信頼性のある学習評価を進めるための準備

- 学習指導要領の目標、指導要録の評価の観点の趣旨を踏まえて
- 各教科の単元（題材）ごとの評価規準と、指導と評価の計画を作成する。

児童、保護者への説明

- 学校における学習指導及び学習評価の方針について児童・保護者に対して説明を行う。

授業ごとの指導と評価

- 個々の児童の実態に応じた指導を工夫する。
- 児童の学習状況は補助簿等を活用し、記録する。

単元（題材）ごとの評価の総括

- 評価資料を基にして観点ごとに評価を総括する。

学期末及び学年末の評価の総括

- 単元ごとの評価の結果を基にして、学期末及び学年末の観点ごとの評価の総括を行う。
- 学校内での総括の仕方の共通理解を図る。

年間の評価の総括

- 各教科の評定を含む評価を行う。
- 4つの観点からバランスよく評価する。

評価規準・評価方法等について見直しを図る

6

評価規準作成の具体的な手順

① 学習指導要領に示す**各教科の目標、学年の目標及び内容**

② 平成 22 年 5 月 11 日付け 22 文科初第 1 号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（通知）で示された**各教科の「評価の観点及びその趣旨」並びに「学年別の評価の観点の趣旨」**

③ 平成 22 年 11 月国立教育政策研究所作成の「評価規準の作成のための参考資料」（国立教育政策研究所ホームページ <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）に示された

「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」

※ 「内容のまとめり」

→学習指導要領に示す領域や内容項目等をそのまとめりごとに整理したもの

※ 「評価規準の設定例」

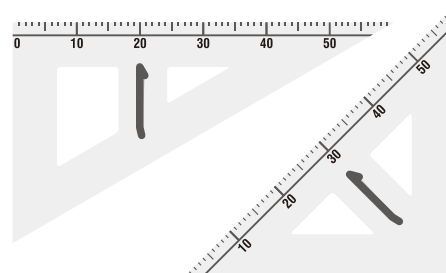
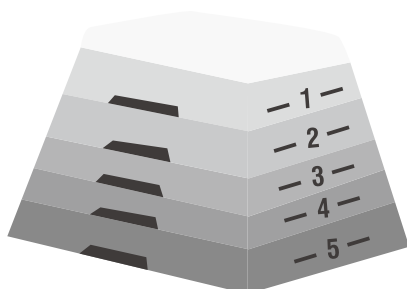
→原則として、学習指導要領の各教科の目標、学年（又は分野）の目標及び内容のほか、当該部分の学習指導要領解説の記述をもとに作成されたもの

④ 設置者が作成する指導要録における**各教科等の「評価の観点及びその趣旨」**



これら①②③④を参考に

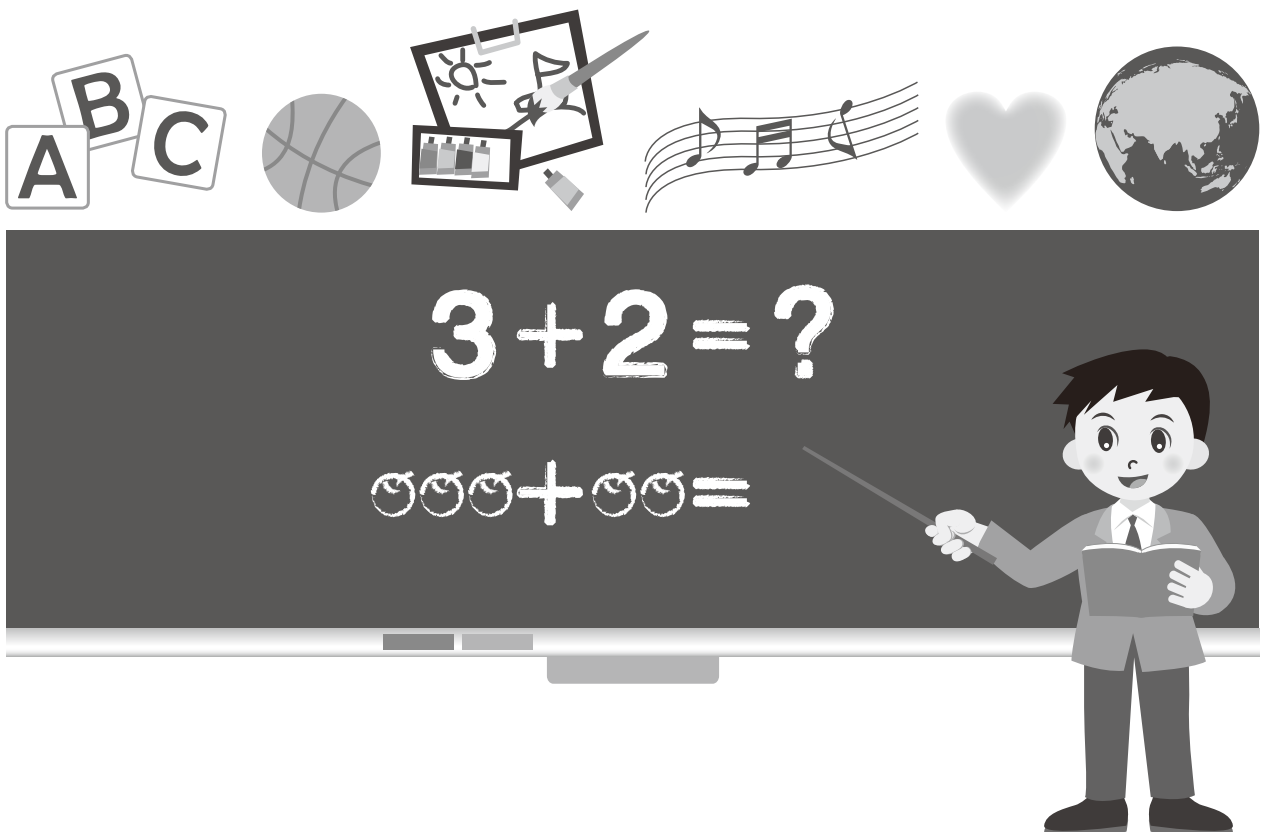
- ◆ 自校の指導計画に基づいて、**単元（題材）ごとの観点別の評価規準を作成する。**
- ◆ 単元（題材）の指導計画に基づき、**学習活動に即した具体的な評価規準を作成する。**



7

各教科等における指導と評価

- 各教科等の事例は、新しい学習指導要領の趣旨等を踏まえたものであり、今後の指導の参考にさせていただくために作成したものです。
- 本事例における指導案の様式（「単元指導計画及び評価計画」、「本時の展開」等）は、一つの例です。指導案を作成する際は、事例の様式を参考に各学校の実態や研究のねらい等に応じて、適切に様式を設定して下さい。
- 指導のポイント **指** には、言語活動の充実を図るための具体的な指導のポイント等を示しています。
- 評価のポイント **評** には、評価の観点及び評価規準に基づく具体的な評価方法等を示しています。



国語

1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する関心を深め，国語を尊重しようとする。	相手や目的，意図に応じ，話したり聞いたり話し合ったりし，自分の考えを明確にしている。	相手や目的，意図に応じ，文章を書き，自分の考えを明確にしている。	目的に応じ，内容をとらえながら本や文章を読み，自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに，文字を正しく整えて書いている。

※「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」は，学習指導要領の内容のまとまりに合わせ，基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けられている。その上で，「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」と合わせ，5 観点が設定されている。

3 改訂の要点

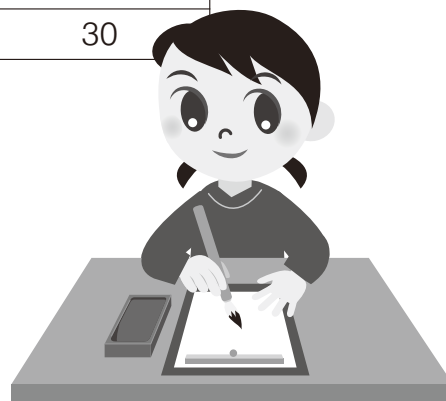
言語の教育としての立場を一層重視し，国語に対する関心を高め，国語を尊重する態度を育てるとともに，実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること，我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置く。

- 日常生活に必要とされる対話，記録，報告，要約，説明，感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう，継続的に指導することとし，課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ，基礎的・基本的な知識・技能を活用し，相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。
- 「話すこと・聞くこと」においては，音声言語教材を活用し，指導効果を高める。
- 「書くこと」においては，実際に文章を書く活動をなるべく多くするとともに，課題設定や取材→構成→記述→推敲→交流といった過程を重視し，指導の充実を図る。
- 「読むこと」においては，場面ごと段落ごとに平板に読み取らせる指導を改善し，児童自身が読む目的を明確にして本や文章を選んだり，目的に応じて内容をとらえたりするなど，児童にとって必要な読む能力を調和的に育成する。
- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」については，第1学年から第6学年までの各学年において継続して指導し，昔話や神話・伝承，故事成語等を通して古典に親しめるように配慮する。小学校の低・中学年から古典などの暗唱等をさせた上で，古典や近代以降の作品に触れさせ，理解を深めるようにする。

- 読書に親しむとともに、学校図書館を計画的に利用して必要な図書資料を選び、資料から情報を取り出してまとめることができるよう指導する。
- 漢字の読みの指導では、当該学年で指導する漢字に加え、上の学年に担当されている漢字等についても、必要に応じて振り仮名を用いるなどして児童が読む機会をもつようにする。

《示されている担当単位時間の目安》

領域等・学年	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
「A 話すこと・聞くこと」	35	30	25
「B 書くこと」	100	85	55
毛筆を使用する書写	—	30	30



4 評価規準と本時の展開例

1) 単元名

「むかしのお話を楽しもう」

(教材：「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」ふるさと読本『いずも神話』

〈*義務教育課 HP よりダウンロードできます。〉

『おおくにぬしのぼうけん』(福永武彦・文 片岡球子・絵 岩崎書店)

2) 単元のねらい

- ・ 神話や昔話に興味をもち、お話の好きなところや面白いところを進んで発表しようとする。
【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 神話について、場面の様子をおさえながら想像を広げて読み、紹介カードにまとめる。
【読む能力】
- ・ 他の神話や昔話について読み広げる。
【言語についての知識・理解・技能】

3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
神話や昔話に興味をもち、お話の好きなところや面白いところを進んで発表しようとしている。	神話について、場面の様子をおさえながら想像を広げて読み、紹介カードにまとめている。	他の神話や昔話について読み広げている。

4) 単元の指導計画と評価計画 (全 6 時間)

次	時	目 標	主な学習活動	評 価			
				国語	読む	言語	評価規準 (評価方法)
1次	1	神話の読み聞かせを聞き、一番好きな場面を見つける。 指 古典への抵抗感をなくし、古典に親しませるために、低学年においては、登場人物名・大切な言葉などを板書するなどしてゆっくり読み聞かせる。	① 「ヤマタノオロチ」について知っていることをあげる。 ② 「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の読み聞かせを聞く。 ③ 本文の中から一番好きなところを探して線を引き、理由をノートに書く。 指 興味・関心を高めるため、導入で視聴覚教材の活用も考えられる。	○	○	○	(国) 「ヤマタノオロチ」の話について興味・関心をもって聞いている。 (観察) (読) 一番好きなところについて考えてノートに書いている。 (ノート)
	2 3 本時	友だちの意見も参考にしておうちの人にむけて「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の紹介カードを書く。 指 語り口調や声の大小、速さ、問の取り方、表情などに触れて、作品の世界に浸らせるために、読み聞かせの後に本文を配る。	① 話の最初の方から発表していく。同じ場面を選んだときは、名前を黒板に書く。 ② 友達の意見も参考にしておうちの人にむけて「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の紹介カードを書く。	○	○	○	(国) 場面の展開に沿って自分が好きなところとその理由を発表している。 (発言・ノート) (読) 最初に考えたことや友達の意見を参考にしておうちの人に向けて「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の紹介カードを書いている。 (ワークシート)
2次	4 5	他の神話の読み聞かせを聞いたり、探して読んでたりして神話や昔話に親しむ。 指 読書へのアニメーション(「前かな後ろかな」など)を取り入れ楽しく読み広げることも考えられる。	① ものがたり絵本『おおくにぬしのぼうけん』(福永武彦・文 片岡球子・絵 岩崎書店)の「いなばのしろうさぎ」の部分の読み聞かせを聞き、様々な「神話」があることを知る。 ② 昔から言い伝えられている話について学校図書館で探して読む。 指 内容の読み取りを深めるためグループで同じ神話を読み一場面の内容を演じる等の工夫も考えられる。	○	○	○	(国) 「いなばのしろうさぎ」の話について、興味・関心をもって聞いている。 (観察) (言) 神話や昔話について、興味・関心をもって学校図書館で探して読み広げている。 (観察)
	6	他の神話や昔話について友達に紹介できるようにする。	① 前時の神話や昔話の中から、1冊(1話)選んで、主な登場人物やおもしろかったところを4人グループの中で紹介する。	○	○	○	(国) 自分が選んだ話について、主な登場人物やおもしろかったところを発表している。 (観察・ワークシート)

5) 本時の学習

① 本時のねらい (1次 2・3時間目)

- ・ 場面の展開に沿って自分が好きなところとその理由を進んで発表しようとする。

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 全体で意見の交流をして、「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」についておうちの人への紹介カードを書く。

【読む能力】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価（評価方法）
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="252 344 587 477" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達の意見も参考にしながらおうちの人に「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の紹介カードを書こう。</p> </div> <p>2 場面（1ページずつ）ごとに読み聞かせを聞き、好きな場面とその理由を発表する。同じ場面を選んでいたら理由は付け加えていく。</p> <p>3 全員の発表が終わったところで、発表を聞いた感想や意見を述べる。</p> <p>4 もう一度「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」について読み聞かせを聞く。</p> <p>5 友だちの意見も参考にしながらおうちの人に向けて「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の紹介カードを書く。</p> <div data-bbox="225 1294 596 1518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指 児童が主体的に文章を読むようにするために目的意識をもって読む活動を設定する。ほかに、画用紙1枚に言葉や絵でまとめて発表する活動や、自分が読み語りをしたいところを発表する活動に替えることも考えられる。</p> </div>	<p>○ 「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」の話について一番好きな部分とその理由がノートに書いてあるか確認する。</p> <div data-bbox="683 421 1011 517" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指 根拠を明らかにして理由が説明されているか確認させる。</p> </div> <p>○ 場面の展開に沿って各自の意見とその理由を発表することを確認する。</p> <p>○ 黒板を横長に6等分し(6ページ分)、発言箇所と理由のキーワードを書いていく。同じ意見の場合は名前を書き添えていく。</p> <p>○ 全員が発表するよう声掛けをする。</p> <p>○ 他の人の発表を聞いて、新たに気付いたことなどを聞く。</p> <div data-bbox="644 958 1018 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指 他の人の意見とその理由を聞いて、よいところを見つけて感想を伝え合い、交流の場をもつことで、他者の考えを理解するとともに自分の考えがもてるようにする。</p> </div> <p>○ ゆっくり読み聞かせをする。</p> <p>○ 紹介カードについて以下のような項目を示すことで書きやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を言います。～が出てきます。 ・私の一番お気に入りのところは○○が～しているところです。 ・そのわけを話します。それは～だからです。 など 	<div data-bbox="1070 421 1433 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評 本時の前後でノートを点検し、児童が読むことのねらいを最終的に達成できるような学習過程にあるかを確認し、発言のみで、評価を行わないよう留意する。</p> </div> <p>☆ 場面の展開に沿って自分が好きな部分とその理由を発表している。（発言・ノート）</p> <div data-bbox="1070 1025 1433 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評 友だちの意見を参考にしながら、項目に沿って、大事な言葉や文をとらえて書いているかを評価する。</p> </div> <p>☆ 最初に考えたことや友だちの意見を参考に「スサノオノミコトのヤマタノオロチ退治」について項目に沿って書いている。（紹介カード）</p>

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
国語への意欲・関心・態度	ノートに書いたことを踏まえて、場面の展開に沿って自分が好きな部分とその理由を詳しく発言している。	ノートを見ながら、場面の展開に沿って自分が好きな部分とその理由を発言している。	机間指導時に本文を見ながら好きな部分を確認し、「なぜか」にあたるキーワードを引き出す。
読む能力	本文に即して大事な言葉や文、自分の印象に残った言葉や文をとらえて紹介カードをまとめている。	文章の大筋をとらえ、本文中の言葉や文を使って、紹介カードをまとめている。	好きな部分の理由が明確になるよう、理由のキーワードを引き出しつないでいって、文章化できるようにする。

社会

1 目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解
趣旨	社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

3 改訂の要点

- 社会的事象に関心をもって**多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させる。**
- 社会的事象に関する基礎的・基本的な**知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から**
 - ・各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の**明確化を図る。**
 - ・コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて**読み取る。**
 - ・社会的事象の意味、意義を**解釈する。**
 - ・事象の特色や事象間の関連を**説明する。**
 - ・自分の考えを**論述する。**
- 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して
 - ・我が国の国土や歴史に対する**愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きる資質や能力を育成する。**
 - ・持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に**自ら参画していく資質や能力を育成する。**

4 評価規準と本時の展開例

1) 単元名 県内の特色ある地域の人々の生活

2) 単元のねらい

- ・県内の特色ある伝統・文化や自然環境を保護・活用している地域やそれにたずさわる人々の生活の様子に関心を持ち意欲的に調べたり、自分たちの住んでいる島根県の特色やよさを考えたりしようとする。
- 【社会的事象への関心・意欲・態度】

- ・ 県内の特色ある伝統・文化や自然環境を保護・活用している地域の様子と自分たちが住んでいる地域を相互に比較したり共通点を考えたりして、島根県の特色やよさを根拠を示しながら説明することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- ・ 地図や資料、インターネットを活用して、県内の特色ある伝統・文化や自然環境を保護・活用している地域の様子について必要な情報を集め読み取ったり、調べたことを用いて作品などにまとめたりすることができる。 【観察・資料活用の技能】
- ・ 県内の特色ある伝統・文化や自然環境を保護・活用している地域やそれにたずさわる人々の生活の様子や、島根県の特色やよさを理解することができる。 【社会的事象についての知識・理解】

3) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
① 県内の特色ある伝統・文化や自然環境を保護・活用している地域やそれにたずさわる人々の生活の様子に関心をもち、意欲的に調べている。 ② 自分たちの住んでいる島根県の特色やよさを考えようとしている。	① 県内の特色ある地域の様子について、学習問題や予想、学習計画などを考え表現している。 ② 浜田市三隅町や海士町と自分たちが住んでいるまちと相互に比較したり共通点を考えたりして、島根県の特色やよさを根拠を示しながら説明している。	① 地図や資料、インターネットを活用して、県内の特色ある伝統・文化や自然環境を保護・活用している地域の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 ② 調べたことを用いて作品などにまとめている。	① 伝統・文化を保護・活用している浜田市三隅町や、自然環境を保護・活用している海士町の地域や人々の生活の様子を理解している。 ② 島根県の特色やよさを理解している。

4) 単元指導計画と評価計画

指 問題解決的な学習過程を取り入れた単元構成にし、言語活動の充実を図りながら、考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる。
 例) 学習問題をつかむ→見通しをもつ→調べる→考えまとめる・振り返る

指 [第3学年及び第4学年] 内容(6)ウについては、『県内の特色を考える』手掛かりとして、県内の特色ある地域の人々の生活を調べる。その際、「伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域」を必ず含め、「自然環境、伝統や文化などの地域資源を保護・活用している地域」から地域のバランスを考え2つ程度取り上げる。

時	主な学習活動	資料、体験等	評価規準と評価方法
1	昔からつくられているものを持ち寄って紹介し合うとともに、島根県の伝統を生かした工業製品を調べる。	・わたしたちの島根(副読本) ・インターネット	関心・意欲・態度-① [行動・発言]
2	浜田市三隅町で作られている石州和紙と洋紙を比べて和紙の特色を調べ、石州和紙作りについて調べる計画を立てる。	・石州和紙の実物 ・わたしたちの島根	思考・判断・表現-① [発言・ノート]
3	牛乳パックを原料とした紙すき体験を行う。	・紙すきに関する資料	技能-① [行動]
4 5	石州和紙ができるまでの工程を調べたり、和紙の原料やその産地の土地の様子、和紙の使い方について調べたりする。	・わたしたちの島根 ・インターネット動画	技能-① [行動・ノート] 知識・理解-① [ノート]

指 観察・資料活用の技能の習得、活用力の育成のために、観察や調査、見学などの体験的な活動を意図的・計画的に単元計画や年間指導計画に位置づける必要がある。

6	和紙職人が協力して技術を守っていくための工夫や努力、自然条件と製品との関係について考え話し合う。	・わたしたちの島根 ・職人さんの話(ビデオ) ・新聞記事	思考・判断・表現-② [発言・ノート]
<p>評 「思考・判断・表現」については、社会的な事象について思考・判断したことを説明、論述、討論等の言語活動を通して一体的に評価する。また、思考・判断した結果だけでなく、過程についても評価するように配慮する。指導者は、「思考・判断・表現」と「技能」のどちらのねらいで行うのか明確にして評価する必要がある。</p>			
7	県内の自然環境に恵まれた地域の一つである隠岐郡海士町の位置・人口などの基本情報や海士町への交通手段等について調べる。	・地図 ・海士町の統計資料 ・インターネット	関心・意欲・態度-① [行動・発表]
8	海士町ではどのような産業が盛んか予想し、調べる計画を立てる。	・地図 ・インターネット	思考・判断・表現-① [発言・ノート]
9	新しい冷凍技術(CAS)を使いたいかな・岩がきの生産や流通について調べたり、さざえカレー製造の歴史について調べたりする。	・インターネット ・さざえカレーについてまとめたプリント ・さざえカレーの実物	技能-① [行動・ノート]
10	島の豊かな自然環境を生かした観光の振興や、自然と共生するまちづくりなどの取組について調べる。	・インターネット	知識・理解-① [ノート]
11	島の豊かな自然環境を生かした産業や観光の振興について、調べたことをガイドブックにまとめる。	<p>評 「技能」については、資料等から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品等にまとめたりする際の「表現」と合わせて評価する。</p>	技能-② [作品]
12	自然環境とまちづくりとの関連や、まちづくりに取り組む海士町の人々の思いについて考え話し合う。		思考・判断・表現-② [発言・ノート]
<p>評 「態度」については、必ずしも行動や実践を求めめるのではなく、社会に対する思いや願い、社会にかかわろうとする気持ちなどを評価する。</p>			
13	県内の特色ある地域についてわかったことや考えたことを関係図にまとめて説明する。	・県内の特色ある地域の関係図	関心・意欲・態度-② [行動・発表]
14	<p>指 児童に考えさせる観点を明確にして学習問題を設定し、事実に即して根拠や解釈を示しながら、考えたことを説明したり話し合ったりする場を設ける。</p> <p>例) ・社会的な事象や問題に対して「なぜか」と問い、事象相互の関係やその意味・意義を考えさせる。(思考) ・社会的な事象や問題に対して「どうしたらよいか」と問い、問題解決の方法や方策を考えさせる。(判断)</p>		思考・判断・表現-② [発言・作品] 知識・理解-② [発言・作品]

注) [第3学年及び第4学年] 内容(6)「県(都、道、府)の様子」は、ア「県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)及び我が国における自分たちの県(都、道、府)の地理的位置、47都道府県の名称と位置」、イ「県(都、道、府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置」、ウ「県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活」、エ「人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかわり」の4つの内容で構成されている。本単元は、このうちのウの内容を取り上げたものである。

5) 本時の学習

① 本時のねらい

自然環境とまちづくりとの関連や、まちづくりに取り組む海士町の人々の思いについて考え、海士町のまちづくりの特色を根拠を示しながら説明することができる。【社会的な思考・判断・表現】

② 本時の展開

時	学習活動	教師の支援	☆評価 ○教材
3	① 本時の学習課題を確認する。	・導入時の海士町に対する思いを想起させるために、導入時に出た意見を提示する。	○ 導入時の児童の発言を書いた紙
13	② 前時に作ったガイドブックのタイトルとそれにした理由について発表し、意見交換する。	・前時までの学習内容を想起できるようにするために、これまで学習に使った写真を併せて掲示する。 ・そのタイトルにした理由を相手に伝わりやすくするために、自分が作ったガイドブックを掲示しながら発表する。	○ ガイドブック、CAS、さざえカレー、あまんぼう、海士中学校生徒の活動の写真
書く 7 発表 15	③ 学習課題の□に入る言葉を考えてカードに書き、その理由を発表し合う。	・カードを配り、1枚に一つの事項を書くように指示する。 ・児童一人一人の考えが伝わりやすくするために、カードを種類ごとに分類し黒板に貼っておく。また、事実にして理由を発表したり、他の考えとの関連を明らかにして発表したりするように指示する。 ・海士町のまちづくりの特色を捉えやすくするために、出てきた言葉を、さらに、まちづくりの内容、まちづくりに取り組む人々の思いに分けて提示する。	○ カード ☆ 自然環境とまちづくりとの関連や、まちづくりに取り組む海士町の人々の思いについて考え、海士町のまちづくりの特色を根拠を示しながら説明している。 (思考・判断・表現:発言, ノート)
7	④ 発表で出てきた言葉を使ってまとめの感想文をノートに書く。	・黒板に書いてあるキーワードを使って書くように指示する。	○ 発言からは把握できなかった児童の考えをノートの記述から読み取り評価する。

「海士町は □ な町（島）」を考えよう。

指 海士町のまちづくりの特色を捉える視点として、「まちづくりの内容」と「まちづくりに取り組む人々の思い」を設定し、児童の考えを分類整理しながら、言語活動を進めていくよう配慮する。

評 「○○を生かして」「協力して」などのキーワードを使って表現している意見を賞賛し、自信を持って発言できるようにする。

評 発言からは把握できなかった児童の考えをノートの記述から読み取り評価する。

③ 本時の評価

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
これまでの学習をもとにして、例えば、自分の生活と比較したり、より広い視野から捉えたりしながら、自然環境とまちづくりとを関連付けたり、まちづくりに取り組む海士町の人々の思いについて考えたりして、海士町のまちづくりの特色を根拠を示しながら説明している。	これまでの学習をもとにして、自然環境とまちづくりとを関連付けたり、まちづくりに取り組む海士町の人々の思いについて考えたりして、海士町のまちづくりの特色を根拠を示しながら説明している。	自分が作ったガイドブックを見直したり、これまで学習したことを振り返ったりしながら考えるように伝える。また、他の児童の考えを、「まちづくりの内容」と「まちづくりに取り組む人々の思い」に分類しながら板書する。

評 「十分満足できる」状況を判断するためには、「おおむね満足できる」状況をいくつかの視点で具体的に想定しておく必要がある。そして、その「おおむね満足できる」状況より、質的な深まりが見られる状況の場合「十分満足できる」状況と判断する。

算数

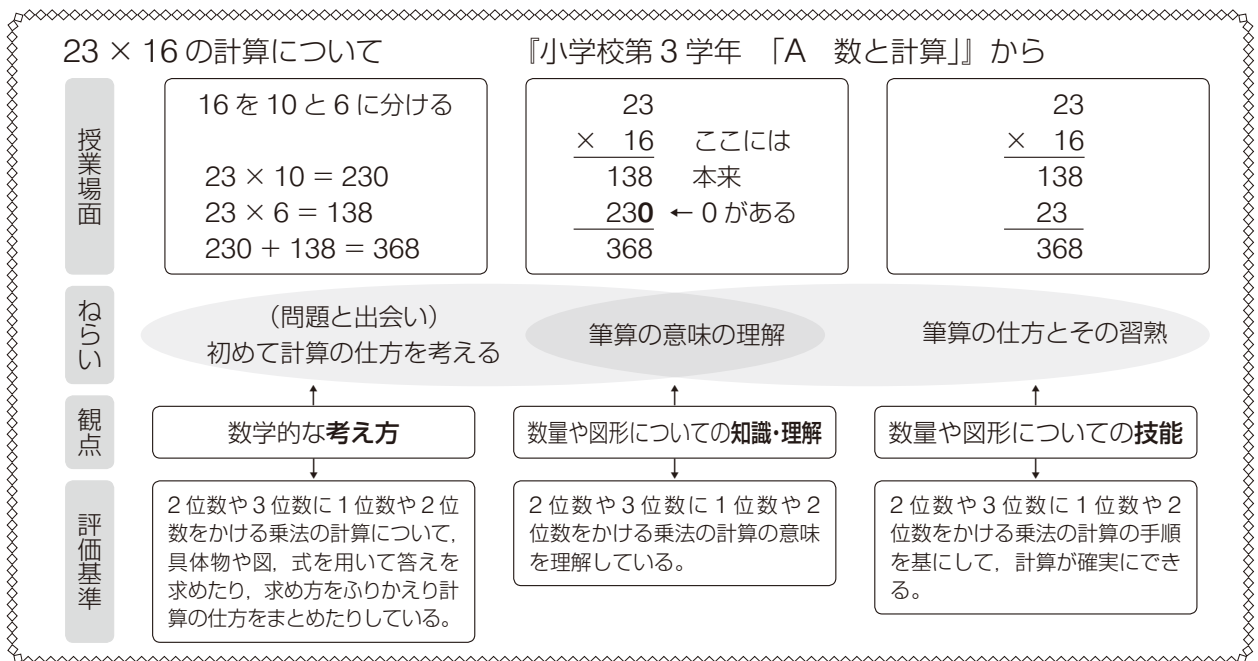
1 目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
趣旨	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

※ねらいに応じた指導と評価（例）



※このように、同様の学習活動であっても、教師のねらいに応じて指導を行い、異なる観点で評価することもある。

3 改訂の要点

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、発達や学年の段階に応じたスパイラルによる指導の充実を図る。
- 国際的な通用性、内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から必要な指導の充実を図る。

- 知識・技能を活用したり、学ぶことの意義や有用性を実感できるよう、数量や図形についての知識・理解を実際の場面で活用するなどの「算数的活動」の充実を図る。
- 言語活動の充実の観点から、[算数的活動]において「言葉や数、式、図、を用いたりして考え、説明する活動」「目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動」などの充実を図る。
- ☆ 言語活動を充実させるための工夫
 - ① 問題文と図、表、式等に関連させて説明させるようにする。
 - ② 「方法」の説明だけでなく、「事実」の説明や「理由」の説明もあることを考慮する。

4 評価規準と本時の展開例

1) 単元名 第5学年 体積

2) 単元のねらい

- ・身のまわりにあるものの体積に関心を持ち、進んで体積を調べようとする。
【算数への関心・意欲・態度】
- ・直方体や立方体の体積の求め方を、図や式などを用いて考えることができる。
【数学的な考え方】
- ・直方体や立方体の体積を、公式を用いて求めることができる。
【数量や図形についての技能】
- ・体積の単位と測定の意味や直方体、立方体の体積は計算によって求めることができることを理解するとともに、体積の量感を身に付ける。
【数量や図形についての知識・理解】

3) 単元指導計画と評価計画 (全10時間 本時9/10時)

	時	主な学習活動	評価				
			関心	考え	技能	知識	主な評価規準(評価方法)
一 直方体や立方体の体積	1	・直方体や立方体の固まりの大きさの比べ方を考える。 ・体積の表し方や求め方を調べる。	○			○	体積に関心を持ち、既習事項と関連づけながら、体積を比べようとしている。 1cm ³ を単位として、その何個分で表すことを理解している。(行動観察・発言・ノート)
	2	・直方体や立方体の体積を計算で求める方法(公式)を考え、体積の公式を使って体積を求める。			○		立体の縦、横、高さの要素から計算で体積を求める方法を考え、求めることができる。(行動観察・ノート)
	3	・工作用紙を使って体積が1000cm ³ になる入れ物を作る。		○			縦、横、高さに着目して、体積が1000cm ³ になる入れ物の作り方を考えている。(行動観察、製作物)
二 大きな体積	1	・大きな体積を表す単位「m ³ 」を知り、大きな直方体や立方体の体積を公式を使って計算する。	○			○	身の回りにあるものの体積をすすんで求めようとする。 体積の求積公式を用いて、体積を求めることができる。(発言・ノート)
	2	・1m ³ と1cm ³ の相互関係を調べる。 ・「容積」について知り、容積を求める。				○	1m ³ と1cm ³ の単位関係を理解している。(発言・ワークシート)
	3	・身近にあるものを使って、体積が1m ³ になるものをつくり、1m ³ の大きさを体感する。				○	体積が1m ³ になるものをいろいろつくることを通して、量感を感得している。(行動観察・ノート)
	4	・練習問題をする。					

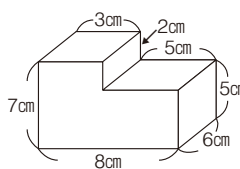
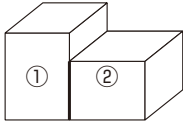
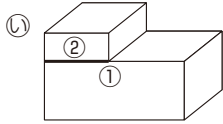
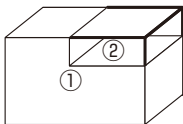
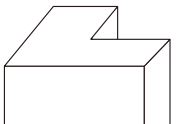
三 体積と比例	1	・高さや体積の関係を調べる。			○	直方体の高さの変化に伴う体積の変化を調べ、比例について理解している。 (発言・ノート)
四 求め方の工夫	1	・複合図形の体積の求め方を考える。			○	複合図形の体積の求め方を、直方体や立方体に分けたり補ったりして求める方法を式や図、記号等を用いて考えている。 (発言・ワークシート)
五 たしかめ	1	・既習事項の確かめをする。			○	直方体や立方体、複合図形の体積や容積を求めることができる。 (発言・ノート)

4) 本時の学習

① 本時のねらい

複合図形の体積の求め方を、直方体や立方体に分けたり補ったりして求める方法を式や図、記号等を用いて考えることができる。【数学的な考え方】

② 本時の展開

時	学習活動と予想される児童の反応	☆ 評価と教師の支援
7	<p>1. 学習の課題をつかむ。</p> <p>次のL字型の立体の体積は、求められるかな。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・分からないなあ。出っ張った部分がじゃまだなあ。 ・L字型の面積の時と同じように考えればできそう。 ・直方体や立方体なら求められるから・・。 ・直方体がくっついてる。 ・足りないところを付け足して、後から引けばできそう。 ・どうも、いろいろなやり方がある。 	<p>既習事項（立方体や直方体の体積の求め方や、L字型の面積の学習）とつなげて考えられるように、直方体の模型やL字型の面積の図等を用意し、児童の実態に応じて提示する。</p> <p>指 児童が本時の学習について、見通しがもてるように実態に応じて導入を工夫する。</p> <p>課題に対して、気がついたことや分からないことを伝え合い、体積を求めるための見通しがもてるようにする。</p>
13	<p>2. 体積の求め方を考える。</p> <p>体積の求め方を考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>㊸</p>  <p>分積(縦に分けて)</p> <p>① $6 \times 3 \times 7 = 126$</p> <p>② $6 \times 5 \times 5 = 150$</p> <p>①+② $126 + 150 = 276$</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>㊹</p>  <p>分積(横に分けて)</p> <p>① $6 \times 8 \times 5 = 240$</p> <p>② $6 \times 3 \times 2 = 36$</p> <p>①+② $240 + 36 = 276$</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>㊺</p>  <p>補積(付け足して)</p> <p>① $6 \times 8 \times 7 = 336$</p> <p>② $6 \times 5 \times 2 = 60$</p> <p>①-② $336 - 60 = 276$</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>㊻</p>  <p>等積(向きを変えて)</p> <p>① $7 \times 8 - 2 \times 5 = 46$</p> <p>② $46 \times 6 = 276$</p> </div> </div>	<p>複合図形をプリントしたワークシートを児童一人一人に配付し、考えやすいようにする。(一枚一図形) ワークシートは複数用意する。</p> <p>自力解決できた児童に対しては、別の求め方に挑戦するよう言葉かけをする。</p> <p>自力解決できない児童に対しては、複合図形が直方体や立方体と繋げて考えられるように、具体物を用意するなど児童の実態に応じた支援をする。</p> <p>指 予想される児童の姿や表現(式、図、つぶやきなど)をあらかじめ具体的にイメージしておく。</p>

15 3. 自分の考えを伝え合う。

自分の考え方を友だちに説明してみよう。

- (1) 自分の考えた求め方の式と答えを、発表する。
 ・どれも体積は 276cm^3 だ。

- (2) どのように求めたのか説明し合ったり、質問し合ったりする。

- ・ $6 \times 8 \times 7 = 336$ はここが 6cm でここが…
- ・ $6 \times 5 \times 2 = 60$ の 5 はどこから出てきたのですか？
- ・ ①の部分と②の部分の2つの直方体に分けて一つ一つの体積を求めています。
- ・ 無いところに直方体があると考えて求めています。

指 児童のいろいろな考えを深めるために、伝え合う場を設ける。児童や学級の実態に応じて、グループやペア学習など形態の工夫をすることも効果的である。

指 説明をし合う活動では、直接図を指で示したり、記号を用いたりするなどして、図と式、表などを関連づけ、思考の過程を説明できるようにする。

指 説明を聞く側は、視点をもって聞くようにする。

指 子どもたちが発表しやすいように、板書を計画的に行う。

友達の求め方について、式を読み取り、図や記号等と関連づけて考えるように、始めに全体の場で式と答えだけを発表する。

指 根拠を問うなど、児童の考えを揺さぶる言葉かけをし、考えを深めるようにする。

☆ 複合図形の体積の求め方を、直方体や立方体に分けたり補ったりして求める方法を式や図、記号等を用いて考えている。

評 数学的な考え方を評価する場合、問題を解決する際に期待する数学的な考え方（本時では直方体や立方体に分けたり、補ったりする考え）を明確にして評価する。

指 「考えを表現すること」だけでなく、「表現したことからさらに考えを深める」ことを大切にする。

5 4. 本時の学習をふりかえる。

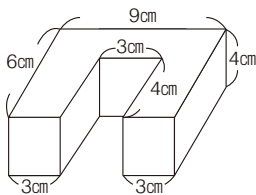
今日の学習で、気がついたことを発表しよう。

- ・ L字型の立体の体積は、立体の引っ込んだところから補助線を引いて、直方体を作れば求められた。
- ・ 無いところをつけたして大きな直方体と考えれば求めることができた。
- ・ ○○さんの、図と式に番号をつける説明の仕方は、とても分かりやすかった。
- ・ 次は、もっと複雑な立体の体積の求め方を考えてみたい。

説明することが難しい児童に対しては、説明できた児童の後に発言するようにしたり、きっかけの言葉を教師から示したりして、説明しやすくする。

求め方が似ているところ、違っているところなど、児童の気付いたことから、複合図形を求めるための大切なことについて児童の言葉を中心にまとめる。

5 5. 練習問題をする。



指 練習問題をとおして、本時に学習したことのおよびが実感できるようにする。

- ・ 「今日の学習の気がついたこと」を使うと簡単に求められたよ。

評 結果だけでなく、その過程を含めて評価する。

評 児童の取組を肯定的にとらえた評価言を大切にする。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手だて
数学的な考え方	複合図形の体積の求め方を、既習のL字型の面積の求め方と関連付け、式や図、記号等を用いて考えている。	複合図形の体積の求め方を、直方体や立方体に分けたり補ったりして求める方法を、式や図、記号等を用いて考えている。	直方体に分けられる複合図形を用意し、それをもとにした求め方を式や図に表すように助言する。

理科

1 目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
趣旨	自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって事象を比較したり、関係付けたり、条件に着目したり、推論したりして調べることによって得られた結果を考察し表現して、問題を解決している。	自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、これらの過程や結果を的確に記録している。	自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて実感を伴って理解している。

3 改訂の要点

主体的な問題解決の学習過程の中で、科学的な思考力・表現力をはぐくむ指導の充実を図る

- 児童が主体的に問題解決の活動を進められるように、導入において児童が問題を見いだす状況や問題解決に対する見通しを意識する場面をつくる。
- 観察や実験の結果を表やグラフ、絵、図等に整理・処理するなど、考察場面を充実させる。
- 考察場面では、予想や仮説と関連付けながら考察を言語化し、表現させる。
- グループや学級全体の話し合い活動では、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、説明したりさせる。
- ワークシートや観察、パフォーマンステスト、レポート、ペーパーテスト、自己評価、相互評価など、評価の観点に適した評価方法を選び、児童の学習状況を評価しながら次の学習指導につなげる。

観察・実験などの体験的な活動を重視する

- 児童が自らの諸感覚を働かせた観察・実験となるようにする。
- ものづくりなどの科学的な体験、身近な自然を対象とした自然体験などを取り入れ、体験的に学習を進める。
- 問題に対して予想や仮説をもち、観察・実験などの計画・方法を工夫することにより、見通しをもった観察・実験となるようにする。
- 実験操作や野外観察等において、安全への配慮を十分に行い、事故防止に努める。

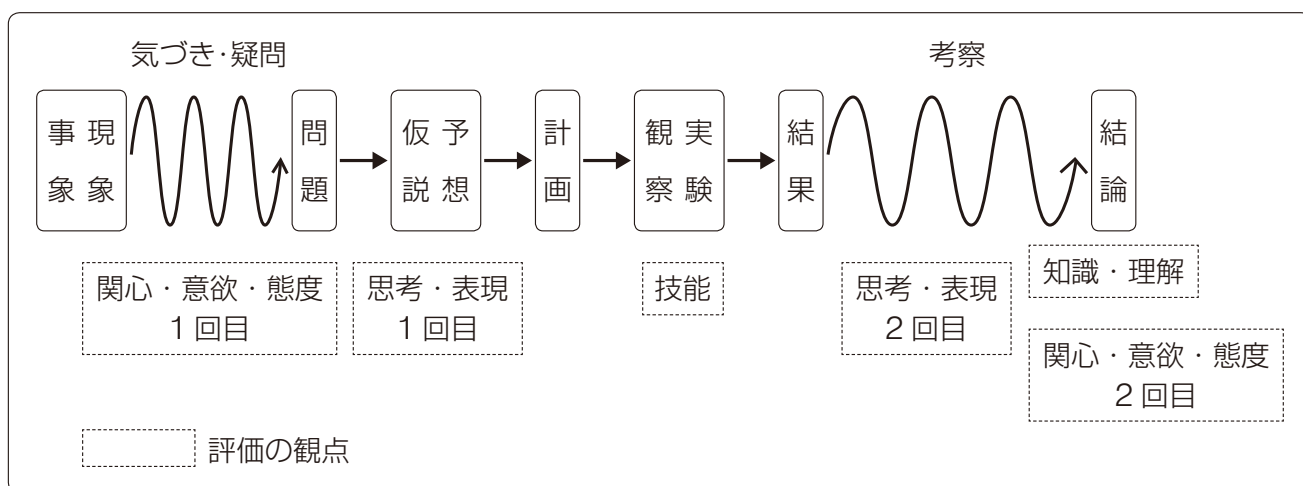
自然に親しみ、納得をもった理解につなげる指導の工夫をする

- 学習したことが自然の中で成り立つことに気付いたり、生活の中で役立てられていることを確か

めたりしながら、問題解決の過程を通して児童が納得をもって理解できるようにする。

- 地域教材を扱うときは、できるだけ地域の自然と触れ合える学習活動を取り入れ、地域理解を深め、地域の自然への関心を高めるようにする。
- 自然環境を大切にし、その保全を考えた学習や環境への負荷に留意した学習の充実を図る。
- 指導内容に応じてコンピュータや視聴覚機器などを用い、動画や静止画等のメディア教材と観察・実験を組み合わせ、一層の理解を図る。
- 生命の神秘を感じとり、自然を愛する心情や真理を大切にしようとする態度をはぐくむことなど、理科の目標と道徳教育との関連を意識させる。

4 問題解決の過程における評価の工夫（第3学年「風やゴムの働き」の例）



理科の学習は、主体的な問題解決の活動を重視する。そのような活動の中で適切な評価規準を設定し、児童にどのような力を育てていくのかを明確にする。

ここでは、第3学年A(2)「風やゴムの働き」の単元の評価規準の設定例を示す。

- ① 関心・意欲・態度 1回目
 - ・風やゴムの力を働かせたときの現象に興味・関心をもち、進んで風やゴムの働きを調べようとし、問題を見いだそうとしている。
- ② 思考・表現 1回目
 - ・風を当てたときの物の動く様子や、ゴムを引っばったり、ねじったりしたときの物の動く様子を比較して、それらについて予想や仮説をもち、表現している。
- ③ 技能
 - ・風を受けたときやゴムを働かせたときの現象の違いについて、手ごたえなどの体感を基にしながら調べ、その過程や結果を記録している。
 - ・送風機やゴムを適切に使って、安全に実験をしている。
- ④ 思考・表現 2回目
 - ・風を当てたときの物の動く様子や、ゴムを引っばったり、ねじったりしたときの物の動く様子を比較して、それらを考察し、自分の考えを表現している。
- ⑤ 知識・理解
 - ・風の力は、物を動かすことができることを理解している。
 - ・ゴムの力は、物を動かすことができることを理解している。
- ⑥ 関心・意欲・態度 2回目
 - ・風やゴムの力の働きを活用してものづくりをしたり、その働きを利用した物を見付けたりしようとしている。

5 評価規準と本時の展開例

1) 単元名 第6学年「土地のつくりと変化」全12時間

2) 単元のねらい

土地やその中に含まれる物を関係付けて、土地のつくりと変化について推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。

3) 単元の評価規準

【本単元の評価規準の設定例】

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
<p>① 身の回りの土地やその中に含まれる物、土地の変化と自然災害との関係などに興味・関心をもち、自ら土地のつくりと変化の様子を調べようとしている。</p> <p>② 土地をつくったり変化させたりする自然の力の大きさを感じ、生活している地域の特性を見直そうとしている。</p>	<p>① 土地の様子や構成物などから、土地のつくりと変化のきまりについて予想や仮説をもち、推論しながら追究し、表現している。</p> <p>② 土地のつくりや変化の様子について数地点の土地の構成物を関係付けて調べ、自ら調べた結果と予想や仮説を照らし合わせて推論し、自分の考えを表現している。</p>	<p>① ボーリングの資料や映像資料などを活用したり、安全に野外観察を行ったりしながら、土地のつくりと変化の様子について工夫して調べている。</p> <p>② 土地のつくりと変化の様子を調べ、その過程や結果を記録している。</p>	<p>① 土地は、礫、砂、粘土、火山の噴火によって噴出した火山灰及び岩石からできており、層をつくって広がっているものがあることを理解している。</p> <p>② 地層は、流れる水の働きによってでき、化石が含まれているものがあることを理解している。</p> <p>③ 土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。</p>

4) 単元指導計画と評価計画（全12時間）

時	学習活動	教師の支援・留意点	評価規準及び評価方法
第一次 1時間	<p><活動のきっかけ></p> <p>○ 古代出雲国の地図等を観察して、どのような自然の働きによって斐川平野の地形変化が起こったのか予想する。</p> <p>(問題) はじめは宍道湖だった斐川地域は、どのようにして斐川平野になったのだろうか。</p> <p>○ 地形変化が起きる要因を話し合い、自分の考えをまとめる。</p> <p>○ 航空写真等から、上流では侵食の働きがよく見られ、下流では堆積の働きがよく見られることを観察する。</p> <p>指 児童が主体的に問題解決の活動を進められるように、問題を見いだす状況や問題解決に対する見通しを意識する場面をつくる。</p> <p>(見方や考え方) はじめは宍道湖だった斐川地域は、斐伊川の流水の働きの堆積作用により陸地が広がり、平野となった。</p>	<p>◇ 「流水の働き」の侵食・運搬・堆積の三作用について想起し、土地の動き方と河川の関係を大きな時間の流れと範囲でとらえられるようにする。</p> <p>◇ 「流水の働き」の作用による川の様子の違いをとらえるようにする。</p> <p>◇ 「流水の働き」の学習経験を想起させ、地形変化が起きるためには、どのような要因が考えられるか話し合わせる。</p>	<p>評 児童が意欲をもって主体的に学習に取り組もうとする動機付けとなるように配慮するとともに、実際の自然や生活と関連づけようとする行動の中でとらえる。</p> <p>関心・意欲・態度① 発言分析・記録分析</p>

<p>第二次 4時間</p>	<p><活動のきっかけ> ○ 校区の土地のおいたちを様々な資料を基に調べる。</p> <p>(問題) 校区の土地は、どのようにしてできたのだろうか。</p> <p>○ 土地のおいたちについて予想し、調べる方法を話し合っして学習計画をたてる。 ○ 土地はどのような物でできているのか、資料を調べる。 ○ 学校から校区を見たり、校区の鳥瞰写真(または、地形図)を観察したりすることにより、地形の特徴を見つける。 ○ 火山の働きでできた地層の特徴を調べる。 ○ 地形の特徴や地層を観察し、土地のでき方について考えたことを表現する。</p> <p>指 できるだけ地域の自然と触れ合える学習活動を取り入れることで、地域理解を深め、地域の自然への関心を高めるようにする。</p> <p>(見方や考え方) 土地は、火山灰及び岩石からできており、層をつくって広がっているものがある。また、流水の働きで地形変化を起こすこともある。</p>	<p>◇ 校区の土地は太古から様々な自然の力で変化をしながら現在に至っていることをとらえさせる。</p> <p>◇ 普段の生活の中で感じている地形の様子について話し合わせる。 ◇ 第一次の学習を想起させ、地形の変化の様子とその要因を話し合わせる。 ◇ 調べる計画を立てられるように支援する。 ◇ 適切な野外観察ができるように支援する。 (野外の露頭観察の指導内容例) ・地層は、各地点を連ねるように広がりをもって分布している。 ・地層は、幾重にも層状に重なって下の層ほど古い。(地層累重の法則) ・穴のあいた石や火山灰、れき岩、砂岩、泥岩の特徴。 ・実体顕微鏡、解剖顕微鏡、ルーペ等の使用方法。 ・保護眼鏡の使用等の安全指導。 ◇ 火山の活動については、視聴覚教材等も活用する。 ◇ 観察の結果から校区の土地のでき方をワークシートに記述し、説明させるようにする。</p>	<p>関心・意欲・態度② 発言分析・記録分析</p> <p>評 基礎的・基本的な知識技能を活用しつつ、内容に即して思考したことを、説明、記述などといった言語活動等の様子から分析する。</p> <p>思考・表現① 記述の分析</p> <p>技能② 行動観察・記録分析</p> <p>評 器具や機器などを目的に応じて工夫して扱っているか観察する。</p> <p>思考・表現② 記述の分析 知識・理解① 記述の分析</p> <p>評 習得すべき知識や概念を整理し、それについての考えをもっているか分析する。</p>
<p>第三次 4時間</p>	<p><活動のきっかけ> ○ 私たちのまちの土地のおいたちをボーリングの資料等を基に調べる。</p> <p>(問題) 私たちのまちの土地は、どのようにしてできたのだろうか。</p> <p>○ 土地のおいたちについて予想し、調べる方法を話し合っして学習計画をたてる。 ○ 水の働きでできた地層や岩石の特徴を調べる。 ○ 水の働きでできる地層のモデル実験を通して調べる。 ○ 地層やボーリングの資料を観察し、土地のでき方を表現する。</p> <p>指 考察場面において、個人又はグループで観察した結果を絵や図等に整理・処理させるなど、ワークシート等を使用して表現させ、言語活動の充実を図る。</p> <p>(見方や考え方) 土地は、れき・砂・泥等の岩石や地層からできており、流水の働きによってできた地層には、化石が含まれるものがある。</p>	<p>◇ 地域のボーリングの資料を用意し、土地の構成物を調べられるようにする。 (ボーリングの資料と関連付ける内容) ・堆積実験装置等を使ったモデル実験による地層のでき方。 ・水の働きでできた地層が地上に出る様子。 ・化石のでき方</p> <p>指 児童が自らの諸感覚を働かせて観察できるように助言したり、観察した結果を記録し、自分の考えを整理できるようなワークシートの工夫をしたりする。</p>	<p>関心・意欲・態度② 発言分析・記録分析</p> <p>思考・表現② 記述の分析 (紙芝居) 知識・理解② 記述の分析</p> <p>技能① 行動観察・記録分析</p> <p>思考・表現② 記述の分析 (紙芝居)</p> <p>評 推論して調べたことを文字や記号としての表現ばかりでなく、イメージ図や立体的なモデルを用いさせ、その発言や記述の中からとらえるようにする。</p>

第四次 3時間	<p><活動のきっかけ></p> <p>○ 火山や地震による土地の変化を調べる。</p>	<p>・火山や地震による土地の変化の様子について視聴覚教材等により指導する。</p>	<p>関心・意欲・態度① 発言分析・記録分析</p> <p>知識・理解③ 記述の分析</p>
	<p>(問題) 火山の噴火や地震によってどのようなことが起きるのだろうか。</p> <p>○ 土地のつくりや変化についてまとめ、自分の住んでいる地域や特徴的な事例について説明する。</p> <p>(見方や考え方) 土地は、火山や地震によって大きく変化することがある。</p>	<p>◇ 学習内容をもとに自分の住んでいる地域や特徴的な事例を例にしながら土地のつくりや変化の様子について説明活動をさせる。</p>	

指 コンピュータや視聴覚機器などを用い、動画や静止画と既習の学習内容を組み合わせ理解が深まるようにする。

5) 本時の学習 (第三次 8, 9時)

① 本時のねらい

土地やその中に含まれる物の様子を調べる工夫をし、ルーペ（解剖顕微鏡）などを適切に使って観察するとともに、土地のつくりと土地のでき方について、観察や実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現することができる。【科学的な思考・表現】【観察・実験の技能】

② 本時の展開

主な学習活動	教師の支援 ◇ 評価 ☆
<p><活動のきっかけ></p> <p>○ 私たちのまちの土地のおいたちを調べる。</p> <p>(問題) 私たちのまちの土地は、どのようにしてできたのだろうか。</p> <p>○ 学校のまわりの地下の様子を予想する。</p> <p>○ ボーリングの資料を諸感覚をつかって観察する。</p> <p>【諸感覚をつかった観察の視点】 におい、色、手ざわり、硬さ、音</p> <p>【分析的な観察】 粒の大きさ・形、化石、土砂中の水分</p> <p>【児童の予想される推論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化石片のある資料を取り出して、ルーペ等で観察し、貝殻等の生物の化石が含まれていることから、湖や海の底で堆積したのだろう。 ・粘土のような細かい粒の層があることから、海や湖の底のような流れのない環境で堆積したのだろう。 ・砂のようなやや細かい粒の層があることから、河口付近で堆積したのだろう。 ・れきのような粗い粒の層があることから、中流域のような流れのある環境で堆積したのだろう。 ・資料中のれきの様子をルーペ等で観察し、角がとれて、丸みを帯びている川原のれきと似ていることから、川原で堆積したのだろう。 	<p>◇ 校区の土地のつくりと変化については、既習内容として習得しているので、それを活用して考えるように支援する。</p> <p>◇ 下にある地層が古く、上にある地層が新しいことを確認する。</p> <p>◇ 資料中の土砂の呼称（れき、砂、泥）を指導し、粒の大きさを比較しながら調べさせる。</p> <p>◇ ルーペ、解剖顕微鏡等の観察器具の使用方法を指導する。</p> <p>◇ 岩石をハンマーで割る時には、安全眼鏡をかけるとともに、飛び散らない等、慎重に観察するように指導する。</p> <p>◇ ボーリングの資料の判別についてグループでばらつきがある場合は、多面的に判別するよう支援する。</p> <p>◇ 砂、粘土等の粒の大きさが異なる資料は、メスシリンダーの中で攪拌・沈殿するなどのモデル実験を通して、大きい粒の上に小さい粒が積み重なることが理解できるようにする。</p> <p>☆ 技能① 諸感覚をつかってボーリングの資料の様子を観察し、ルーペや解剖顕微鏡等を適切に使って、資料の判別をしている。<行動観察></p> <p>◇ まわりのポイントでのボーリングの資料が同じような地層の順になっていることから、地層は広がりがあることを指導する。複数のポイントの資料がない場合は、地域の柱状地盤図を利用して理解できるようにする。</p> <p>◇ 私たちの土地のでき方については、ワークシート（紙芝居形式等）に記入させて、児童の考えを記述説明させる。</p>

・1つの層の中で、大きい粒上に小さい粒のものが積み重なっていることから、一度にいろいろな大きさの土砂が流されてきて、堆積したのだろう。

☆ **思考・表現② 土地のつくりと変化について、観察や実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現している。**

＜記述分析＞

指 考察をまとめる際のポイント

- 実験データを適切に反映させて考察できるようにする。
- 論理的に矛盾や飛躍がないように、1つの実験結果だけで結論づけるのではなく、複数の実験結果から多面的に考察し結論を導き出すようにする。
- 実験結果から考察した結論を相手にわかりやすく表現できるようにする。例えば、モデル図や絵、グラフなどの相手の理解を促す表現方法を用いるようにすることが必要である。

評 土地やその中に含まれる物を関係付けて、土地のつくりと土地のでき方について推論する能力と、考えたことを適切な言語や図などを使って分かりやすく表現する力を、児童の記述したワークシートから記録分析をして、評価する。

(見方や考え方)

土地は、れき・砂・泥等の岩石や地層からできており、流水の動きによってできた地層には、化石が含まれるものがある。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
科学的な思考・表現	土地のつくりと変化について、観察や実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、イメージ図や立体的なモデルを用いながら自分の考えを表現している。	土地のつくりと変化について、観察や実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現している。	土地のつくりと変化について、観察や実験の結果と流水の動きによる堆積の様子との関係を整理できるように支援する。
観察・実験の技能	ボーリングの資料の様子をルーペや解剖顕微鏡等を適切に使い、諸感覚を通して得た情報と関連付けて、資料の判別をしている。	ボーリングの資料の様子をルーペや解剖顕微鏡等を適切に使って、資料の判別をしている。	動画や静止画を使用してボーリングの資料の様子を説明し、ルーペや解剖顕微鏡等を適切に使って、資料の判別ができるように支援する。



生活

1 目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
趣旨	身近な環境や自分自身に関心を持ち、進んでそれらとのかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

3 改訂の要点

- 気付きを基に考えたりすることなど、**気付きを質的に高める**観点から、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する。
- 児童を取り巻く環境の変化を考慮し、**安全教育**に関する内容を充実するとともに、**自然のすばらしさ**、**生命の尊さ**を実感する指導を充実する。
- **地域の出来事**などを**身近な人々と伝え合う活動**を行い、人とのかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。

4 評価規準と本時の展開例

1) 評価規準設定上の配慮事項

1 内容で1単元を構成する場合、該当となる「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にしながら単元の評価規準を作成するとともに、「評価規準の設定例」を参考にしながら、学習対象や学習内容に応じて、学習活動（小単元）における具体的評価規準を作成する。

また、複数内容で1単元を構成する場合は、該当となる「評価規準に盛り込むべき事項」「評価規準の設定例」を参考にしながら、学習活動（小単元）における具体的評価規準までを作成する。

その際、大きく2つの型が考えられる。

モザイク型…「評価規準の設定例」の中から必要なものを選んだり、順序を入れ替えたりするなど、当てはまる方を選び出して、モザイクのように設定する手法。

融合型…「評価規準の設定例」を参考に、単元の目標との一貫性、整合性を保ちながら、複数内容を組み合わせたり、融合させたりして設定する手法。

2) 単元名 「大好き わたしの町」(町たんけんⅡ わたしの町ではたらく人)

3) 単元のねらい

指 内容(3)「地域と生活」(8)「身近な人々との伝え合い」で構成するモザイク型を意識した単元。

- ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合うことに関心をもち、進んで交流しようとする。【生活への関心・意欲・態度】
- ・働く人に進んでかかわることによって地域の人に親しみを感じ、活動を通して気付いたことなどを工夫してまとめたり伝えたりする。【活動や体験についての思考・表現】
- ・町たんけんをしたり、地域の人と交流したりする活動を通して、自分の生活が地域の人や場所とかかわっていることや地域の人とかかわる楽しさに気付く。【身近な環境や自分についての気付き】

4) 単元指導計画と評価計画(全18時間)

単元の評価規準 小単元の評価規準	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
単元の評価規準	地域の人や場所、それらとのかかわりに関心をもち、進んで交流したり適切に接したりしようとしている。	地域の人々と交流し適切に接することについて、相手や場に応じた行動を考えたり、わかりやすい伝え方を工夫したりして表している。	地域の人や場所が自分の生活を支えていることや伝え合う楽しさが分かり、それらができるようになった自分に気付いている。
第1次 町たんけんをしよう。 (はたらく人たんけん) 8時間 本時「おとうぶを買いに行こう」4、5/8	地域の人々や様々な場所に関心をもちかかわろうとしている。 評 他の観点の重点化を図るため、枠を全て埋める必要はない。	相手や場に応じた行動について考え、活動の計画を立てたり、約束を決めたりしている。	地域には様々な仕事があり、それらの仕事に携わっている人がいることに気付いている。
第2次 〇〇豆腐店のおとうぶで、おみそ汁をつくらう。 2時間		調べたり、作ったりするなどの活動や、家庭、地域における自分の生活について自分なりに考えている。	地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所が、自分たちの生活を支えていることに気付いている。
評 第1次、第2次は、内容(3)に重点を置く。町探検を通して、地域の人や様々な場所が自分たちの生活を支えていることに気付くことが大切になるので、「気付き」の評価規準を重視する。			
第3次 町の名人さんを見つけ、名人のなるほどをたくさん見つけて、まとめよう。 6時間	伝えたいことを見つけたら、集めたりしようとしている。	活動したことをもとに、比べたり、たとえたりして、わかりやすい伝え方を工夫している。	

指 かく活動として、

- ・伝えたいことを絵や紙芝居などにまとめる。
- ・時間を追った流れ図を作る。
- ・説明する内容を文章にまとめる。
- ・招待状や案内状を作成する。
- ・感謝の気持ちを手紙にする。などを取り入れる。

指 児童一人一人が、地域で働く人と交流したり、調べたりしていく。豆腐屋さんとの活動をもとに、比べたり、たとえたりするなどの多様な学習活動を工夫する。

第4次 なるほど発表会をしよう。 2時間	地域の人々と楽しく伝え合い、繰り返し交流しようとしている。	好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返り、自分なりの方法で表している。	
----------------------------	-------------------------------	--	--

指 話す活動として、
・活動の感想、
・お客様へのインタビュー
など、自分の思いを相手に話すとともに、相手のことを尊重したコミュニケーション活動が行えるようにする。

評 第3次、第4次は、内容(8)に重点を置く。発表会準備・開催の活動を通して、伝え合い、地域の人と楽しく交流するためにどうするかを考えることが大切になるので、「思考・表現」の評価規準を重視する。

5) 本時の活動 (第1次, 第4, 5時)

① 本時のねらい

買い物の体験を通して、木綿豆腐と絹ごし豆腐に出会い、豆腐や、豆腐屋さんで働く人々について調べようとする意欲を高める。
【生活への関心・意欲・態度】

② 本時の展開

学習場面と児童の取組	教師の支援○と評価☆
<p>(第4時)</p> <p>1. ○○豆腐店におみそ汁で使うおとうふを買いに行こう。</p> <p>指 みそ汁を自分たちで作って食べる活動を取り入れることによって、働くことを体験的に理解すると共に、自分たちのくらしが、家族、学校、地域の人々と結びつき、支えられていることを実感的に理解させる。</p> <p>「おさいふの準備は、ばっちりだ。」 「お店の人にどう言うか考えているよ。」</p> <p>2. ○○豆腐店でおとうふを買おう。 「どのお豆腐を買っていいのかわからないよ。困ったな。」</p> <p>指 調べようとする意欲を高めるために、お店の人の協力を仰ぎ、木綿と絹ごしのどちらを買うか迷う場面をつくり出す。</p>	<p>○ 探検活動と買い物活動の準備と約束(マナーなど)を確認する。 ○ たんけんマップや写真を用いて目的地の豆腐屋さんを確認する。あわせて途中のお店なども確認しておく。</p> <p>指 これから繰り返し訪問する際に、他のお店などの地域理解が進むよう、学校から少し離れたお店を追究対象として設定する。</p> <p>☆ 買い物をする場面において、お店の人と意欲的にかかわろうとしている。</p> <p>○ 「よく調べてからもう一度来よう。」と声がけし、帰校後の調べる活動につながるようにする。 ○ どちらも買って帰りたいといったアイデアが児童から出たら、認め、帰校後の活動に活用する。</p>
<p>(第5時)</p> <p>3. 木綿豆腐と絹ごし豆腐や豆腐屋さんについて調べよう。 「本で調べよう。」 「お家の人に聞いてみよう。」 「給食の先生にも聞いてみよう。」 「上級生に聞いてみよう。」 「もっとおとうふについて知りたいな。」 「おとうふやさんはほかにどんなことをがんばっているのかな。」</p> <p>評 今後の言語活動の充実を図るために、児童の取組を肯定的に評価する評価言を大切にする。</p>	<p>○ 買うことはできなかったが、買い物をすること自体は上手にできたと認め、気持ちよく調べる活動に取り組むことができるようにする。 ☆ 調べようとする意欲を高め、どのように調べていくのかという見通しをもっている。 ○ 豆腐の作り方を中心に、「豆腐屋さんで働く人は、何時頃から仕事をしてられるのかな。」などと問いかけ、調べる対象が働く人にも向くようにする。</p>

4. ふりかえりをしよう。

○ 教師がとらえた児童のよい取組を具体的に紹介し、次時へのさらなる意欲化を図る。

③ 本時の評価（おおむね満足できると判断される児童の具体例）

- ・豆腐屋さんで売られている木綿豆腐，絹ごし豆腐を知り，どう違うのかという疑問意識をもち，くわしく調べようとしている。

〔支援が必要とされる児童への指導の手だて〕

- ・みそ汁づくりに対する不安を取り除くと同時に，食べることへの期待感を高める言葉がけをする。
- ・木綿豆腐，絹ごし豆腐についてわかったことを箇条書きで書き上げる活動に誘いかけ，教師もともに活動する。



音楽

1 教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨等

(1) 改訂の概要について

[表 1]

観点	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。
A 表現	○	○	○	
B 鑑賞	○			○

(太斜線は改訂で「鑑賞の能力」に移された部分)

※ 新しい評価の観点「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」の「**音楽表現**」は、「A 表現」の「歌唱」「器楽」「音楽づくり」などの**諸活動を指すもの**として、従前の「表現」から名称が変更になった。なお、「**思考・判断・表現**」の「**表現**」は、すべての教科に共通して位置付けられた言語活動を行う学習の場面において、**思考・判断したことを顕在化する意味**で用いることが大切である。

※ 観点イ「音楽表現の創意工夫」及び観点エ「鑑賞の能力」では、発想や構想に基づき創意工夫して表現することや、鑑賞した楽曲のよさを考え、味わうことなど、「**聴き取ること**」と「**感じ取ること**」を**かかわらせた学習展開を構築**することが大切である。(表 1：趣旨の前半部分を参照)

このことは**音楽科の学習に即した思考力や判断力をはぐくむこと**につながるため、これからの学習指導においても引き続いて留意する。

※ 音楽科において、**観点ウ「音楽表現の技能」**を評価するに当たっては、特に「技能」に関する観点(表 1 の観点「音楽表現の技能」と、「音楽表現を創意工夫する」観点(同「音楽表現の創意工夫」)とに分けて評価する。また、**観点エ「鑑賞の能力」**を評価するに当たっては、特に「聴き取ること(知覚)・感じ取ること(感受)」に関する観点(従前では観点イ「音楽的な感受」と、「自分なりに評価したり価値を考えたりする能力」に関する観点(従前では観点エ「鑑賞の能力」)とに分けて評価していたものを、関連させ一体的に捉える。

(2) 趣旨について

※ 観点ア「音楽への関心・意欲・態度」については、学習内容としての音や音楽に対する関心や音楽活動への主体的な取組を評価することが趣旨となる。

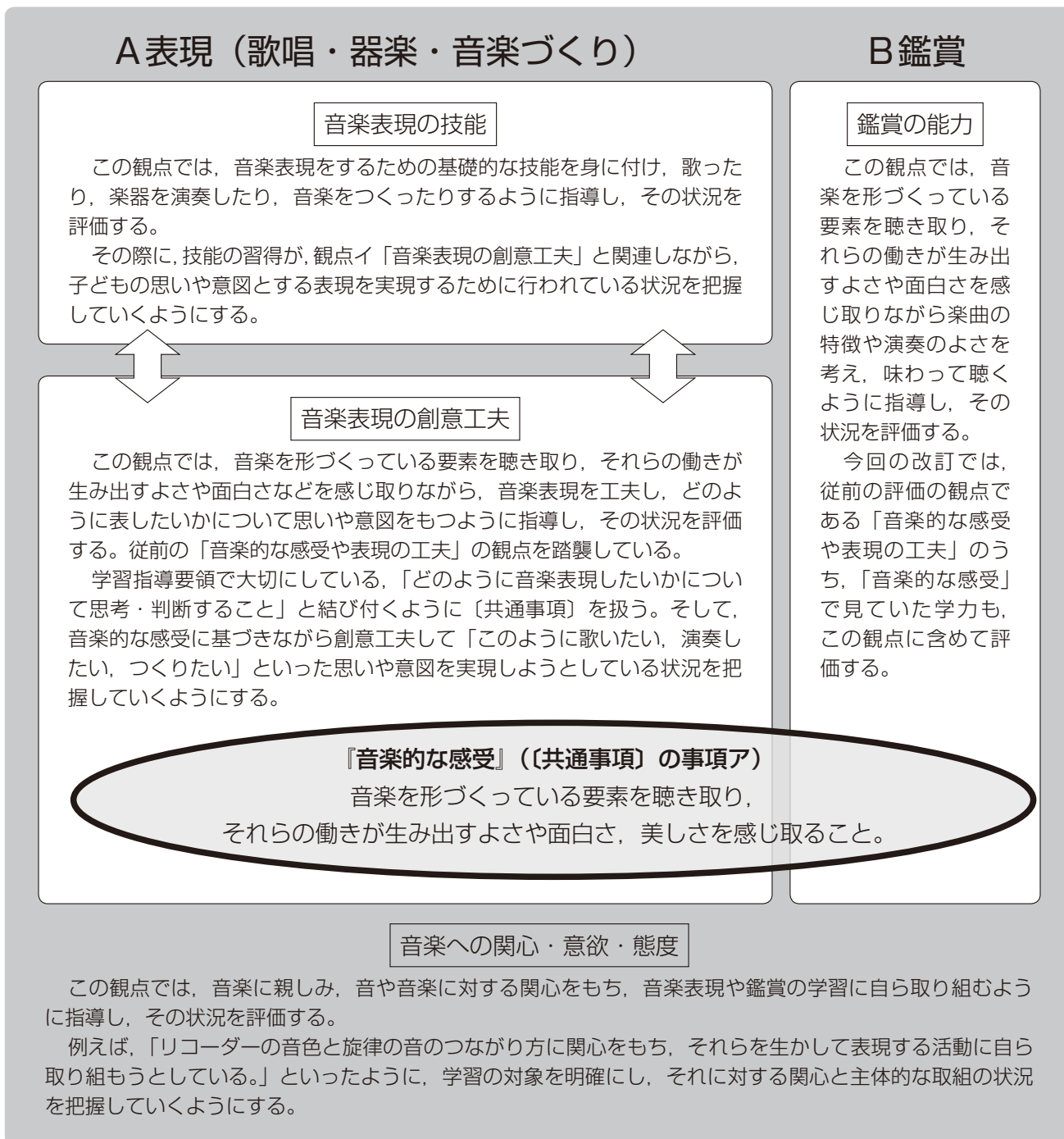
※ 新学習指導要領では、**【共通事項】**を手がかりとした学習を支えにしながら、**思考・判断する力の育成を重視**している。そして、**【共通事項】**の**ア**にかかわる評価は、表現活動では観点イ「音楽

表現の創意工夫」で、また、鑑賞活動では、観点工「鑑賞の能力」の中で評価することに留意する。
 (表1：趣旨の前半部分を参照)

※ 今回の改訂では、従前の観点イで示されていた『音楽的な感受』という文言が消えたが、評価をしないということではない。『音楽的な感受』の部分については、新しい評価の観点イ「音楽表現の創意工夫 (A 表現)」と、観点工「鑑賞の能力 (B 鑑賞)」のそれぞれにおいて、【共通事項】を学習の手がかりとして、適切な学習指導とその評価の実施が求められる。(図1を参照)

(3) 実際の評価に当たっての配慮事項について

[図1]



- ・『音楽的な感受』は、「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」に共通して位置付けられ、「A 表現」及び「B 鑑賞」それぞれの学習を支えるとともに、**両領域の関連を図る上でも鍵となる。**
- ・「A 表現」の学習では、で示したように、「音楽表現の創意工夫」に係る学力と「音楽表現の技能」に係る学力を相互にかかわらせながら伸ばしていくことに留意する。

- ・「音楽への関心・意欲・態度」は、他の三つの観点と密接に結び付いている。歌ったり、楽器を演奏したり、音楽づくりをしたりする表現の活動や、音楽を聴いて、よさや美しさを味わう鑑賞の活動を通して、学習内容に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする意欲や態度をはぐくむことが求められる。

3 改訂の要点

- 指導のねらいを一層明確にするとともに、音や音楽から聴き取り感じ取ったことを基に、思考・判断し表現したり、味わったことを人に伝えたりする**一連の学習過程を重視する**。
- 音楽科の学習内容は、表現領域（「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」）の三分野、鑑賞領域及び〔共通事項〕で構成されている。その中の**〔共通事項〕**については、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを**聴き取り**、それらの働きによって生み出される音楽的な面白さやよさを感じ取ることや、音楽に関する用語や記号などを**音楽活動と関連付けながら理解できるように指導する**。
- 表現と鑑賞との関連を図った題材を構成する際には、表現活動と鑑賞活動の両方に共通して重点的に指導する学習内容を**〔共通事項〕から精選して位置付ける**。
- 「音楽づくり」については、生活の中にある音に耳を傾けたり様々な音を探したり音をつくったりして音の面白さに気付くとともに、**音を音楽へと構成する音楽の諸要素や音楽の仕組みの面白さに触れるようにする**。
- 鑑賞領域については、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを**聴き取れるようにし**、それによって音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにする。
- 楽曲や演奏の楽しさに気付いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたり理解したりする能力を高められるよう、音楽にかかわる用語等を適切に用いながら、自分の感じ取ったことを言葉で表すなど、音楽科の学習に即した**言葉の活用を重視する**。

4 評価規準と本時の展開例

【対象学年：第4学年】

1) 題材名

呼びかけ合うフレーズの面白さを味わおう ～問いと答えの仕組みに注目して～

2) 題材の目標

問いと答えの仕組みに関心をもって、旋律が模倣している仕組みを聴き取り、それによって生み出される曲想を感じ取りながら歌ったり鑑賞したりする活動を通して、旋律の歌い方を工夫したり、音楽のよさを味わったりする能力を育てる。

3) 学習指導要領とのかかわり

- ・本題材で指導する事項：A 表現（1）イ、ウ B 鑑賞（1）ア、イ、ウ
- ・本題材で指導する内容：〔共通事項〕問いと答え、強弱、旋律、フレーズ

4) 教材

- ・「とんび」（葛原しげる 作詞／梁田 貞 作曲／石桁冬樹 編曲）
- ・「バイオリン協奏曲『四季』から 春（第1楽章）」（A. ヴィヴァルディ 作曲）

5) 評価規準

① 領域・分野と評価の観点との関連

領域・分野	評価の観点	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱		○	○	○	
A・器楽					
A・音楽づくり					
B・鑑賞		○			○

② 題材の評価規準と単位時間における具体的な評価規準

	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
題材の評価規準	歌詞の表す様子や問いと答えの特徴が生かされた曲想に関心をもって、音楽表現を工夫して歌ったり、曲想を感じ取ったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	問いと答えや旋律の特徴を聴き取って、それらの働きによって生み出される曲想を感じ取り、どのように表現するか、思いや意図をもって音楽表現を工夫している。	楽曲全体を通して感じ取った曲想を生かしながら歌っている。	問いと答えによる仕組みを聴き取り、それらの働きによって生み出すよさや面白さを感じ取り、楽曲の特徴を味わって聴いている。
具体的な評価規準	① <こだま>のように呼びかけ合う問いと答えの仕組みに関心をもって聴いている。(鑑賞) ② 「とんび」の歌詞の表す様子と曲想のかかわりに関心をもって進んで歌おうとしている。(歌唱)	① 問いと答えの仕組みを聴き取り、その働きによって生み出される曲想を感じ取り、強弱を手がかりにしながら思いや意図をもって歌唱表現を工夫している。(歌唱) ② 第1, 2, 4フレーズの旋律を聴き取り、その働きによって生み出される曲想を感じ取り、強弱を手がかりにしながら思いや意図をもって歌唱表現を工夫している。(歌唱)	① 強弱による抑揚やフレーズ感を出すために、呼吸の仕方に気を付けながら、曲想にふさわしい表現で歌っている。(歌唱)	① 問いと答えの仕組みを聴き取り、その働きによって生み出される面白さを感じ取っている。(鑑賞) ② 問いと答えによって生み出された曲想について、想像したことを理由と共に言葉で表すなど、楽曲の特徴のよさを味わっている。(鑑賞)

評 各学校において具体的な評価規準を設定する場合には、指導のねらい、教材の特徴、学習活動を考慮するなどして、実際の学習活動に即した評価規準を設定する。

評 従前の観点イで見取っていた「音楽的な感受」の部分を、観点エで評価する。

評 観点エ①で見取ったことに基づきながら楽曲の特徴等について味わって聴くように指導を工夫する。

評 観点別に評価を行う際には、配当時間内におけるバランスを考慮するとともに、1単位時間に設定する評価規準を1～2つに絞るなど、効果的・効率的に評価ができるように配慮する。

6) 指導と評価計画 (全6時間)

次	時	ねらい	○学習内容・学習活動	評価	評価方法
第一次	1	問いと答えの仕組みによって<こだま>するような旋律に関心をもって、その面白さを感じ取ることができるようになる。	○ 「バイオリン協奏曲『四季』から春(第1楽章)」の、旋律が問いと答え(模倣)になっている箇所を聴き取り、その仕組みで構成されている音楽のよさや面白さを感じ取る。 ・ 楽曲の冒頭部分を、体を動かす活動を取り入れながら繰り返し聴き、問いと答えの箇所に気付く。 ・ <こだま>するように模倣されている旋律を聴き取り、感じ取った情景についてワークシートに記入する。 ・ 問いと答えの箇所で、各自が気付いたことや感じ取ったことをグループ内で発表し、クラス全体で共有する。 ○ 学習の振り返りをする。	ア① エ①	発言の内容 ワークシートの記述 指 聴き取ったこと、感じ取ったことを分けて書けるようにワークシートを工夫する。

第二次	2	歌詞の表す様子や曲想に関心をもって進んで歌うことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「とんび」を聴いて、とんびが飛んでいる様子を想像する。 ・ 範唱 CD を聴いて、気付いたことや感じたことを発表する。 ・ 歌詞を読んだり、とんびの写真を見たりして、イメージしたことをワークシートに記入する。 ○ ワークシートに記入したことを意識しながら旋律を歌う。 ・ 音高やリズムに気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱をする。 ○ 学習の振り返りをする。 	ア②	発言の内容 演奏の聴取 ワークシートの記述
第三次	3 (本時)	問いと答えによる仕組みを生かしながら、強弱を手がかりにして、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「とんび」の歌詞の表す様子を生かしながら、曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・ とんびの様子からイメージしたことをグループで共有する。(前時のワークシートを参考にする。) ・ 第3フレーズの「ピンヨロ」の問いと答えの部分に着目し、どのようなとんびの様子が表現されているかを考える。 ・ 各自が考えた様子をグループで共有し、どのように歌うとよいかについて、強弱を手がかりにしながら表現を工夫する。 ・ 学習した表現を生かして、みんなで「とんび」を歌う。 ○ 学習の振り返りをする。 	イ①	発言の内容 楽譜への書き込み 演奏の聴取 ワークシートの記述
	4	旋律の特徴を生かしながら、強弱を手がかりにして、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1, 2, 4 フレーズについて、旋律の表現方法を考える。 ・ 4小節のゆったりした旋律のまとまりに着目し、どのように歌うとよいかについて、手の動き(ハンドサイン)で表してみる。 ・ 旋律の動きと強弱表現とを関連させながら表現を工夫する。 ○ 学習の振り返りをする。 	イ②	発言の内容 楽譜への書き込み 演奏の聴取 ワークシートの記述
	5	強弱による抑揚やフレーズ感を出すために、呼吸の仕方に気を付けながら、曲想にふさわしい表現で歌うことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3～4時目の中で学習した表現を生かしながら、曲想にふさわしい表現で歌う。 ・ 表現を工夫していく際に考えたことを確認し合い、歌唱表現する。 ○ グループごとに歌唱表現する。 ・ 思いや意図と、工夫した点を紹介しながら、演奏を発表する。 ・ 発表を聴いて、演奏効果のあったことについて話し合う。 ○ 学習の振り返りをする。 	ウ①	演奏の聴取
第三次	6	問いと答えによる旋律の表れ方の違いに気付いて、そのよさを味わって聴くことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「バイオリン協奏曲『四季』から 春(第1楽章)」の問いと答えの表れ方の違いを聴き取ってそれぞれの効果を感じ取る。 ・ 第1時目に聴いた冒頭部分と独奏部分(1回目)の部分と比較して聴き、同じ〈こだま〉でも旋律の表れ方に違いがあることを聴き取ってそれぞれの効果を感じ取る。 ・ 第1楽章全体から味わったことを、気付いたことや感じたことを根拠にして言葉で表す。 ○ 学習の振り返りをする。 	エ②	発言の内容 ワークシートの記述

評 評価規準ウ①は、「音楽表現の創意工夫(イ①・イ②)」を受けて、それを実際の音楽で表現できているかを見取るために配置する。

7) 本時の学習 (本時 3 / 6)

① ねらい

問いと答えによる仕組みを生かしながら、強弱を手がかりにして、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする。【音楽表現の創意工夫】

② 展開

	・学習活動 ◇予想される児童の反応	教師の支援	評価規準と方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・問いと答えが生かされた手遊び歌で音楽遊びをする。 <p>指 音楽活動が本時のねらいと関連するように、活動の内容を精選する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強弱を取り入れた発展的な音楽遊びができるように支援する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 <p>とんびが飛んでいる様子を歌って表現しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんびの様子からイメージしたことについてグループで共有する。(前時のワークシート参照) ・第3フレーズの「ピンヨロ」の問いと答えの部分について、強弱を手がかりにしながらかのように歌いたいかについてワークシートに記入し、内容をグループで共有する。 <p>指 記入したり、話し合いをさせたりすることが目的にならないように、表現しようとする意図を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3フレーズの歌い方をグループで工夫する。 <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「呼びかけ合っている感じがするから、1小節ごとに <i>f</i>、<i>p</i>、<i>f</i>、<i>p</i> で歌ってみよう」 ◇「とんびが鳴きながら近付いてきて、過ぎ去っていく様子を表現したいから、前半2小節はクレシェンドで、後半2小節はデクレシェンドで歌ってみよう」 <p>指 音楽にかかわる用語等を用いながら、表現しようとする思いや意図を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な感受をもとに、強弱の働きを生かしながら歌い方を工夫しているグループの発表を聴く。 ・学習した表現を生かして、みんなで「とんび」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてと一時間の授業の流れを黒板に提示する。 ・似たようなイメージについては、なるべく具体的な内容にして伝えさせる。 ・活動に取りかかりやすいように、例を示す。 <p>〈例：呼びかけ合う様子の場合〉</p> <p>〈歌い方の工夫〉 1, 3小節目より2, 4小節目を小さく歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図とする表現に近付いているかを確認させる。 <p>指 音楽的な感受に基づく表現が、音楽的な技能を高めることにつながるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて技術面の指導を行う。 ・演奏する前に工夫したところを発表させる。 ・発表したグループの表現方法で歌うように指示する。 	<p>イ① 発言の内容 楽譜への書き込み 演奏の聴取 ワークシートの記述</p> <p>評 ワークシートには、学習のねらいに沿った項目を設定し、学習状況进行评估する。 ・〈こだま〉のように呼びかけ合う問いと答えの仕組みを聴き取り、それらの働きを感じ取っているか。 ・歌詞の表す様子や曲想から思いや意図をもち、表現を工夫しているか。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや感じたことと実際の表現を結び付けていくことで発見したことを共有する。 ・次時は、さらに表現を工夫して、曲想にふさわしい歌い方を学んでいくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を試行錯誤していく中で気付いたことを発表させる。 <p>指 本時のねらいに沿った発言ができるように、発問を工夫する。</p>	

③ 本時の評価 【音楽表現の創意工夫】 イ①

問いと答えの仕組みを聴き取り、その働きによって生み出される曲想を感じ取り、強弱を手がかりにしながらか思いや意図をもって歌唱表現を工夫している。

児童の姿 評価の観点	十分満足できると 判断される児童の姿の具体例	おおむね満足できると 判断される児童の姿の具体例	努力を要すると判断される 児童の姿の具体例と支援
音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・〈こだま〉するような歌い方を生かして、他のフレーズとのつながりを意識しながら歌っている。 ・とんびが遠ざかっていく様子を思い浮かべて、第4フレーズへのつながりを意識しながら歌っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 3小節目は、近くにいる「とんび」の様子を <i>f</i> で、2, 4小節目は遠くにいる「とんび」の様子を <i>p</i> で歌うように工夫している。 ・会話をしながら、だんだん遠くに飛んでいく様子を表現しようと、だんだん弱く歌うように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように強弱を工夫しているのか分からない。 →イメージする情景を言葉で具体的にし、音の強弱を範唱しながら支援する。

評 「おおむね満足できる～」に教師の指導が加わることで質的な高まりが見られる児童の姿を記す。

図画工作

1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

※ 「思考・判断・表現」の「表現」は、基礎的・基本的な知識・技能を活用して学習活動において思考・判断したことと、その内容を表現する活動とを一体的に評価することを示すものであり、図画工作科で示す領域「A表現」とは異なる。「A表現」の学習指導に係る学習評価については、図画工作科で設定される評価の観点を踏まえて行うことが適当である。

3 改訂の要点

- 教科の目標では、「感性を働かせながら」を加え、児童が、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することを一層重視する。学年の目標では、「造形への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」などの育てたい資質や能力をより明確に示す。
- 「A表現」の内容を「(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。」「(2) 表したいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。」とし、内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理する。
- 「B鑑賞」を「(1) 作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。」として、鑑賞の能力や言語活動の観点から整理して示す。
- 鑑賞においては、よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、自分の思いを語る、友達と共に考える、感じたことを確かめるなどを通して、自分自身で意味を読み取り、よさや美しさなどを判断する活動の充実を図る。
- 表現及び鑑賞の各活動において、**共通に必要な資質や能力を【共通事項】**として示す。指導において、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基に自分のイメージをもつことが十分に行われるようにする。
- 「B鑑賞」の各学年の内容に「話したり、聞いたりする」「話し合ったりする」などの学習活動を位置付け、**言語活動を充実する。**
- 美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、**我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。**
- 内容の取り扱いに、**各学年で取り扱う材料や用具**を、手などを十分に働かせるなどの指導の配慮事項とともに示す。鑑賞については、児童や学校の実態に応じて、**美術館などを利用したり、連携**

を図ったりすることなどに配慮する。

4 評価規準と本時の展開例

【対象学年：第3学年】

1) 題材名 ダンボールブロックをつなげよう ～「これ、なあんだ。」見立てた形から広がる世界～

2) 題材のねらい

- ・ 材料の形に興味をもち、組み合わせる活動を通して、つくりたいものへの気持ちを膨らませることができる。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・ 材料の形から見立てたり、組み合わせから想像したことを基に、表したいことや主題について見直しながら考え進めることができる。 【発想・構想の能力】
- ・ 材料の特徴を感じながら、形を加工したり、画材などを取捨選択しながら、工夫してつくり出ることができる。 【創造的な技能】
- ・ 材料の形や作品の特徴の中で感じたことから、よさや改善点を見つけたり、友達と考えを伝え合ったりすることができる。 【鑑賞の能力】

3) 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
材料の形に興味をもち、組み合わせる活動を通して、つくりたいものへの気持ちを膨らませようとしている。	材料の形から見立てたり、組み合わせから想像したことを基に、表したいことや主題について見直しながら考えたりしている。	材料の特徴を感じながら、形を加工したり、画材などを取捨選択しながら、表し方を工夫している。	材料の形や作品の特徴の中で感じたことから、よさや改善点を見つけたり、友達と考えを伝え合ったりしている。

4) 指導計画と評価計画（全10時間）

次	時	ねらい・学習活動	評 価				
			関	発	創	鑑	
第1次	1 2	<p>○ 素材に出会う場として、十分に手や体の感覚を働かせて形をとらえ、見立てからイメージを膨らませることができる。</p> <p>・ ダンボールブロックの形を様々な角度から見て、いろいろな見立てを行い、しりとり遊びの言葉に基づいて、イメージにあった形を探し出し、見立てたことについて絵や言葉で説明する。</p>	○	○			<p>【関】 ダンボールブロックの形のよさや面白さを感じようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【観察】</p> <p>【発】 形から見立てたことや連想する言葉を基に、考えを拡げている。</p> <p style="text-align: right;">【観察・ふりかえりカード】</p>
		<p>指 イメージを膨らませるために、ダンボールブロックの形の感じなどを基に、言葉と関連づけることによって、表現意図を明確にさせる。</p>					
第2次	3 4 5	<p>○ 形から見立てたことやイメージしたことを基に、複数のブロックを組み合わせたりつないだりできる。</p> <p>・ 複数のダンボールブロックを重ねたり棒材でつないだりして試行錯誤し、組み合わせによる面白さから発想し、つくりたいものを見付け出す。</p>		○	○		<p>【発】 形や組合せの様子を味わいながら、つくりたいことやよりよい組合せ方や表したいことを見付け出している。</p> <p style="text-align: right;">【観察・ふりかえりカード】</p> <p>【創】 材料の特徴を感じながら自分らしい表現にこだわって、考えに沿ってよりよい組合せをつくり出している。</p> <p style="text-align: right;">【観察・作品】</p>
		<p>指 自分や他者の考えを生かしながら、よりよい組み合わせ方や表したいことを見付け出すための工夫をさせる。</p>					

第3次	6本時	<p>○ 試行錯誤の活動を経て固めたイメージを仲間と共有したり、他者の感じ方の違いから新しい表現の可能性を見つけたり、自分の表現のよさを再認識したりできる。</p> <p>・「これ、なんだ。」という問いかけから始まり、例として取り上げた一つの作品について全員で鑑賞し見解を伝え合う。</p> <p>・「どのように感じたのか」「なぜ、そう思ったのか」「どこからそう感じたのか」形の組み合わせから感じられるイメージ、色や形の特徴を言葉にする。</p> <p>指 作品鑑賞を深めるために、児童の言葉と言葉をつなぎながら、感じたことを伝え合わせる。</p>	○	○	<p>【発】 見つけたことや感じたことを基に、表したいことや主題について形や材料を見直し、よさを構想に取り入れ、生かそうと考えている。</p> <p>【観察】</p> <p>【鑑】 形の特徴から気が付いたり感じたりしたことについて、理由をつけて友達と話したり、共に感じたり考えようとしていたりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
第4次	7 8 9 10	<p>○ 十分に掘げられた発想と構想を基に、作品として完成するまでの活動ができる。</p> <p>・組み合わせた形の特徴から構想したことを基に、素材の特徴やその他材料との組合せを生かして楽しく表現し、作品に仕上げる。</p> <p>指 用具を安全に扱い、材料のよさを生かせるようなかかわりをさせる。</p> <p>指 子どもの必要性に応じて、材料に板材などを加える工夫も考えられる。</p>		○	<p>【創】 材料の形の特徴を感じながら、自分らしい表現にこだわって着色や飾り付けをしている。</p> <p>【観察・作品】</p>

5) 本時の学習

① 本時のねらい

- ・自分や友だちの立体物を見て、自分なりに感じたことやイメージしたことについて、形の特徴や組み合わせによる構成の様子を表す言葉を用いながら、互いの考えを伝え合うことができる。

【鑑賞の能力】

- ・感じ方の違いや互いの表し方の特徴やよさに気付くことにより、発想の転換をしたり、表し方の可能性を掘げたりすることができる。

【発想・構想の能力】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価【評価方法】
<p>1. 前時をふりかえり、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>2. 「3分間looking」ひとつの作品をみんなで見、面白さやよさを伝え合う。</p> <p>「これ、なあんだ。」みんなの見方や感じ方を聞いて、イメージをひろげよう</p> <p>・全体の形が生き物のように見えるよ。どこでそう思ったかというよ…。</p> <p>・この形の使い方がすてきだと思いません。その理由は…</p> <p>指 具体物を用いたり、相手意識をもって説明したりするように助言する。また、子ども同士でよさを認め合う場面とすることで、言語活動の充実を図る。</p>	<p>○ 前時につかんだ表現しようとしていることについて、ワークシートを用いて確認する。</p> <p>○ 多様な見方や感じ方を言葉で伝え合うことができるように、鑑賞のモデルタイプを示す。</p> <p>・自分なりのとらえ方に沿った具体的な説明や、根拠や理由を伴う意見のよさを認める。</p> <p>・角度によって見え方が変わる立体物の面白さを、視点を交えるように示すことで十分に味わう。</p> <p>・部分的にあるいは全体的に作品をとらえ、イメージを喚起する形や色の特徴に気付くようにする。</p> <p>・理由や根拠を明らかにするように促す。</p>	<p>評 「ふりかえりカード」に、自分の考えや意図、制作の方針、児童の相互評価などを記入させることによって評価する。</p>

<p>3. 見つけた工夫を生かして、作品をつくる。</p> <p>4. 「見てみてタイム ほめほめタイム」 自分や仲間の作品について相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が好きな所は…。理由は…。 ・ぼくが考えていたことと、友だちの考えは違っていただけ、どちらもおもしろいな。 <p>5. 新しい発見・工夫点・改善点を記録に残す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えがかわったので、新しい部品を使うことにしたよ。 ・たくさん色を使って明るい感じにしたいな。 ・別の部品に取り替えなくなった。もっといいアイデアを思いついたよ。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>指 活動の中で、自然と出てくる気付きのつづきや子ども同士の意見交換を拾いあげ、具体的な言葉につなぐように配慮する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・構成された立体物から連想するものやことについて、形の特徴や組み合わせの様子を基に、言葉で伝え合わせる。 ・事前の記録と比較しながら、表現の拡がりや深まりを意識できるようにする。 ・文章だけでなく、画像、図、イラスト、記号で視覚的に表すことも有効であることを伝える。 	<p>【鑑】 自分や友だちの立体物を見て、自分なりに感じたことやイメージしたことについて、形の特徴や組み合わせによる構成の様子を表す言葉を用いながら、互いの考えを伝え合っている。【観察、発表】</p> <p>【発】 感じ方の違いや互いの表し方の特徴やよさに気付くことにより、発想の転換をしたり、表し方の可能性を拡げたりしている。【観察・ふりかえりカード】</p>
<p>6. ふりかえりカードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちにほめてもらったのでうれしかった。アドバイスをもらったので、新しいアイデアを思いついた。 ・自分と友だちの考えでどちらがいいか迷った。 ・自分では気が付かないことを友だちは気付いていてすごかった。でも、今のままで進めたいな。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>指 作品づくりに向けて、〔共通事項〕を基に、イメージ文を書くことも考えられる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなアイデアを獲得するなど、コミュニケーションしたことが有効であったかを問い、そのよさを確認できるようにする。 ・友だちの考えとともに自分が積み上げてきた考えを大切にできるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評】 自分の考えや意図を大切にしながら、友だちの意見などを参考にして、考えを拡げている具体的な感想を評価する。</p> </div>

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への手立て
発想・構想の能力	見つけたことや感じたことを基に、表したいことや主題について形や材料を見直したり、新たに材料を見つけ出したりするなど、よさを構想に取り入れ、積極的に生かそうと考えている。	見つけたことや感じたことを基に、表したいことや主題について形や材料を見直し、よさを構想に取り入れ、生かそうと考えている。	立体物の特徴や形の特徴について、教師や友だちの見立てや感じ方を伝え、考えを生み出す一助にする。また、言語のみでなく図やイラストに描き表すことでイメージを明らかにする。
鑑賞の能力	立体物の形の特徴や組み合わせから気が付いたり感じたりしたことについて、理由をつけて友達と話したり、共に感じたりする中で、互いの考えを伝え合ったりしている。	立体物の形の特徴や組み合わせから気が付いたり感じたりしたことについて、友達と話したりする中で、互いの考えを伝え合ったりしている。	板書等によって形の特徴や組み合わせを整理するとともに、少人数での話し合いや書く活動を取り入れて、理由や根拠を明確にしている。

家庭

1 目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
趣旨	衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、その大切さに気づき、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

* 「家庭生活への関心・意欲・態度」が主体的に学習に取り組む態度を、「生活を創意工夫する能力」が知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を、「生活の技能」「家庭生活についての知識・理解」が基礎的・基本的な知識・技能を評価するものとして整理された。

3 改訂の要点

- 中学校の内容との体系化を図り、生涯の家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する視点から、「A 家庭生活と家族」、「B 日常の食事と調理の基礎」、「C 快適な衣服と住まい」、「D 身近な消費生活と環境」の4つの内容で構成する。
- 家族の一員として成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にする心情をはぐくむことを目指した学習活動を一層充実する。
- 食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの学習活動を一層重視する。
- 身の回りの生活における金銭の使い方や物の選び方、環境に配慮した物の活用などの学習について、他の内容との関連を明確にし、実践的な学習活動を更に充実する。
- 家庭生活を総合的にとらえる視点から、家族の生活と関連させながら衣食住などの内容を取り扱うことを一層重視する。
- 小学校第4学年までの学習を踏まえた2学年間の学習のガイダンス的な内容を設定する。
- 言語を豊かにし、知識及び技能を活用して生活の課題を解決する能力をはぐくむ視点を重視することから、各内容の指導に当たっては、衣食住などの生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、生活の課題を解決するために、言葉や図表などを用いて考えたり説明したりする学習活動を充実する。

4 評価規準と本時の展開例

- 1) 題材名 おいしいため物を作ろう (8時間)

2) 題材の目標

- ・ いためる調理に関心を持ち、材料や目的に応じた調理をしようとする。
【家庭生活への関心・意欲・態度】
- ・ 材料や目的に応じたいため方について考えたり、調理計画を自分なりに工夫したりする。
【生活を創意工夫する能力】
- ・ 用具を安全に取扱い、材料や目的に応じたいため方ができる。【生活の技能】
- ・ いためる調理の特性と、材料や目的に応じたいため方について理解する。
【家庭生活についての知識・理解】

3) 題材の評価規準

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
いためる調理に関心を持ち、材料や目的に応じた調理をしようとしている。	材料や目的に応じたいめ方について考えたり、調理計画を自分なりに工夫したりしている。	用具を安全に取り扱い、材料や目的に応じたいめ方ができる。	いためる調理の特性と材料や目的に応じたいめ方について理解している。

4) 指導と評価の計画

指 実践的・体験的な活動や問題解決的な学習を通して、言語活動の充実を図りながら家庭科の学習指導を進めていく。

時	学習活動	評価規準（評価方法）			
		家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
1	○ 家族へのインタビューや食べ比べから、いためるとはどんなことか話し合う。	・ いためる調理に必要な材料やいため方などに関心をもっている。 (学習カード)			
2 3	○ 火加減、野菜の切り方、いためる時間、いためる順序などの課題グループに分かれ、調理実験をする。 ○ 学習グループに戻り、課題グループで調べたことを報告し、いため方についてまとめる。	指 家族へのインタビューなどから課題をつかみ、課題の追求場面では比較実験や調べる活動を行い、その結果から分かったことや考えたことを図表やグラフ、言葉にまとめ、それを発表し合い活用の仕方を考えるなどの学習活動を取り入れる。		・ フライパンなどのいためる調理に必要な用具を安全に取り扱い、後片付けができる。 (行動観察・自己評価)	・ フライパンなどのいためる調理に必要な用具の安全で衛生的な使い方について理解している。 ・ いためる調理の特性と材料や目的に応じた切り方、いため方について理解している。 (学習レポート)

4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜をいためる時の切り方やいため方などを確認する。 ○ 共通の野菜を使っていたため調理を行い、試食する。 	<p>指 製作や調理などの実習や、目的をもって学習対象を観察したり、触れたり、味わったりするなどの実践的・体験的な活動を通して、生活の中の様々な言葉が実感を伴って理解できるよう、レポート作成や考察、思考したことを発表したりするなどの学習活動を取り入れる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の種類に応じた洗い方、切り方ができ、材料や目的に応じたいため方ができる。 (行動観察・自己評価) 	
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの学習を生かして、「こだわり野菜のため」の調理計画をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわり野菜のために必要な材料や手順に関心をもち、調理計画をたてようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわり野菜のために必要な材料や手順を考え、調理計画を自分なりに工夫している。 (調理計画表) 	<p>評 小学校で学習する基礎的・基本的な技能や知識・理解が、中学校の学習に発展していくものとして意識し、着実な定着につなげることが重要である。</p>	
7 8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自の調理計画に基づき、調理実習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いため方に関心をもち、材料や目的に応じた調理をしようとしている。 (行動観察・自己評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわり野菜のための目的や材料に合った切り方、いため方、盛り付け、環境に配慮した後片付けについて考えたり、自分なりに工夫している。 (調理計画表・実習記録表・写真) 	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわり野菜のための材料や目的に応じた切り方、いため方ができる。 ・フライパンなどのいためる調理に必要な用具を安全に取り扱い、後片付けができる。 (行動観察・自己評価・相互評価) 	

指 B (3)「調理の基礎」及びC (3)「生活に役立つ物の製作」については、2学年間にわたって取り扱うようにし、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへと次第に発展するように、段階的に題材を配列する。

評 「生活を創意工夫する能力」の評価

- ・結果としての創意工夫だけでなく、家庭生活に問題意識をもち、課題の解決を目指して、生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりするその過程を含めて評価することが重要である。
- ・子どもが考えたり創意工夫したりしたことを図や言葉でまとめ、発表し合うなど、言語活動を中心とした表現に係る活動を評価することに留意する必要がある。

5) 本時の学習

① 学習のねらい

- 「こだわり野菜のため」に必要な材料や手順に関心をもち、調理計画をたてようとしている。
【家庭生活への関心・意欲・態度】
- 「こだわり野菜のため」に必要な材料や手順を考え、調理計画を自分なりに工夫する。
【生活を創意工夫する能力】

② 展開

学習活動	教師の支援	評価 (評価方法)
<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>今までの学習を生かして「こだわり野菜のため」の調理計画をたてよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの学習を生かして「こだわり野菜のため」の調理計画を立てることを伝え、本時の見通しをもたせる。 	

<p>2 作りたいこだわり野菜のための調理計画を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料 ・分量 ・切り方 ・いため方 ・手順 ・盛り付け方 <p>3 立てた調理計画をグループで紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の選び方、切り方、いため方等について、工夫したことを発表する。 <p>4 友だちのアドバイスを参考にして、調理計画を見直す。</p> <p>5 本時の学習で気付いたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ こだわり野菜のための条件を確認させる。 ○ 使う材料や切り方などのヒントとなるよう、調理カードや切り方の見本を用意する。 ○ 必要な分量は、調理カードや教科書を参考にして考えさせる。 ○ 調理計画表を書いている様子を見ながら、書きにくそうにしている子どもには、これまでの学習レポートを見直し、野菜の切り方やいため方などを確認するよう促す。 <p>指 グループでの話し合いを通して、自分の考えを整理したり、自分の工夫を友だちに賞賛されたり、友だちの工夫を参考にしたりすることで、工夫するよさを実感させ、調理計画を見直すことができるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりに工夫して調理計画を立てたことを振りかえらせ、次時の実習への意欲をもたせる。 <p>評 調理計画表に材料を選んだ理由やいため方等の工夫の記入欄を設け、発表や記述により評価する。</p>	<p>【家庭生活への関心・意欲・態度】 こだわり野菜のために必要な材料や手順に関心をもち、調理計画をたてようとしている。 (行動観察・調理計画表)</p> <p>評 調理計画表を、今まで学習したためる調理に関する知識や技術を活用して工夫した結果として評価する。</p> <p>【生活を創意工夫する能力】 こだわり野菜のために必要な材料や手順を考え、調理計画を自分なりに工夫している。 (行動観察・調理計画表)</p>
--	--	---

【家庭生活への関心・意欲・態度】

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への手立て
材料の選択や、調理の目的に合った切り方やいため方などを自分なりに考えて調理計画を立てようとしている。	調理カード等を参考にして材料を考えたり、選んだ材料の切り方やいため方について調べたりして調理計画を立てようとしている。	調理カード等を参考にしよう声かけをしたり、大まかな調理の手順を示したりして調理計画を考えることができるようにする。

【生活を創意工夫する能力】

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への手立て
材料の選択の工夫や、調理の目的に合った切り方やいため方などの調理計画の工夫を具体的に記述している。	今までの学習で身に付けた切り方やいため方などの知識や技能を生かして、調理計画の工夫を記述している。	学習レポートを見直したり、これまでの学習を振り返ったりしながら、いためる調理の基礎的事項を確認し、調理計画を立てるように声かけする。



体育

1 目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全 についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
運動に進んで取り組むとともに、友達と協力し、安全に気を付けようとする。また、身近な生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫している。また、身近な生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、これらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 改訂の要点

- 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点を重視し、各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、児童の発達の段階を踏まえ**指導内容の明確化を図る**。
- 指導内容の確実な定着を図る観点から、**運動の系統性**を図るとともに、**運動を一層弾力的に取り上げることができるようにする**。
- 体力の向上を重視し、『**体づくり運動**』の**一層の充実**を図るとともに、学習したことを家庭などで生かすことができるようにする。
- 保健については、**身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容**を重視し、指導内容を改善する。
- 健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、**系統性のある指導**ができるよう健康に関する内容を明確にする。

4 評価規準と本時の展開例

1) 単元名 第4学年 ネット型ゲーム（易しいプレルボール）

2) 単元のねらい

- ・ 友だちと仲よく協力したり、規則を守り勝敗を受け入れたりしながら、運動に進んで取り組むことができる。
【運動への関心・意欲・態度】
- ・ みんなが楽しめるように規則を工夫したり、簡単な作戦を立てたりすることができる。
【運動についての思考・判断】
- ・ ラリーを続けたり、ボールをつないだりするための動きやボール操作を身につけることができる。
【運動の技能】

3) 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
ゲームに進んで取り組むとともに、規則を守り勝敗を受け入れて仲よく運動しようとしたり、運動する場や用具の安全を確かめようとしたりしている。	規則を工夫したり、ゲームの特徴やチームの課題に合った簡単な作戦を立てたりしている。	易しいゲームを楽しく行うための基本的なボール操作や簡単な動きを身に付けている。

5 単元指導計画と評価計画 (全9時間)

① 学習過程

次	第1次(1)	第2次(7)							第3次(1)	
		【ねらい1】 ボール操作に慣れ、簡単な規則でゲームを楽しむ			【ねらい2】 ボールをつなぐ動きを身につけ、チームで作戦を工夫してゲームを楽しむ					
時	1	2	3	4	5本時	6	7	8	9	
学 習 活 動	オリエンテーション	場の設定・準備運動							ま と め の ゲ ー ム	
	5 10 15 20	規則・学習の進め方の確認	学習のめあてや内容、規則の確認							
	25 30 35 40	チームづくり 試しのゲーム	壁打ちプレル等 バウンドラリー	トリプルパスゲーム 3対1		トリプルパス ゲーム3対2				
	作戦の修正・確認・ペアチームと練習									
					リーグ戦①	リーグ戦②				
ふり回り										

指 「どんなふうに動いたらいいのかわからない」「思った通りにできない」など、動きに対するこだわりやつまづきが生じた場面では、動きの問題点の原因や解決方法を探っていくことができるよう時間をとって指導する。

評 体育科では1時間に1評価規準を基本とする。

② 指導と評価計画

時間	学習のねらい	学習活動	評価規準(評価方法)
1	○ プレールボールのゲームの進め方がわかり、単元全体の見通しをもつ。 ねらい1 ボール操作に慣れ、簡単な規則でゲームを楽しむ	1 オリエンテーション ・プレールボールの規則を知る。 ・学習のねらいや進め方を知る。 ・チームの編成をする。 4人×6チーム ペアチームで4色 3人×2チーム 2 バウンドラリー、円陣パスをする。 3 試しのゲームをする。 4 学習をふり返る。	○ 進んで話し合いや運動に取り組もうとする。 【関・意・態】 (観察・学習カード)
2	○ サーブ・アタック ・ボールの中心付近をとらえる ・強くボールをたたく。 ・肘を肩よりも上げて打つようにする。	1 学習のめあてや内容の確認をする。 2 バウンドラリー、壁打ちプレル、ネット越えラリー、円陣パス、ネット越しプレル等を行う。 3 トリプルパスゲームを行う。	○ ボールを床に打ちつける基本的なボール操作ができる。 【技】(観察)

	<ul style="list-style-type: none"> ・足を前後に開く。 ○ パス ・相手のとりやすいようにやわらかく打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2分間で攻守交代 ・3対1 ・3回以上で返すと3点。 ・2回だと2点。1回だと1点。 <p>4 学習をふり返る。</p>	<p>評 「学習カード」等を活用する。声かけや協力できたこと等を記入することにより言語活動の充実を図る。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・両手で正確に相手に向かって打つ。 ○ 動き方 ・ボールに体を向ける。 ・バウンドしたボールに合わせて体を移動できるようにする。 ・カバーリングをする。 	<p>1 バウンドラリー, 壁打ちプレル, ネット越えラリー, 円陣パス, ネット越しプレルを行う。</p> <p>2 学習のめあてや内容・規則の確認をする。</p> <p>3 トリプルパスゲーム 3対1</p> <p>4 リーグ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアチームが, 得点係, 記録, 応援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちと教え合ったり励まし合ったりして, 協力しながら話し合いや運動をしようとする。 <p>【関・意・態】 (観察・学習カード)</p>
4		<p>5 学習をふり返る。</p> <p>指 見つけた動きのコツを視覚的にもわかるように「プレルボール：虎の巻」として掲示し, 言語活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなが楽しめるように規則を見つけている。 <p>【思・判】 (観察・学習カード)</p>
5(本時)			<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きのコツを見つけている。 <p>【思・判】</p>
6	<p>ねらい2</p> <p>ボールをつなぐ動きを身につけ, チームで作戦を工夫してゲームを楽しむ</p>	<p>1 バウンドラリー, 壁打ちプレル, ネット越えラリー, 円陣パス, ネット越しプレルを行う。</p> <p>2 学習のめあてや内容・規則の確認をする。</p> <p>3 トリプルパスゲーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームをふり返り, チームのよかった点や課題を選んでいる。 <p>【思・判】 (観察・学習カード)</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・味方がプレーしやすいように, ボールをつなぐ。 ・相手コートに空いた場所をねらって返球する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2分間で攻守交代 ・3対2 ・3回以上で返すと1点。 ・相手が返球できなかったら+1点 <p>4 チームで作戦を話し合う。</p> <p>5 ペアチームと練習する。</p> <p>6 リーグ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアチームが, 得点係, 記録, 応援を行う。 <p>7 学習をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールをつないで, 相手コートに返球することができる。 <p>【技】(観察)</p>
8	<p>指 単元後半の学習では, 「○○作戦」の中から選択した作戦をもとに, さらに工夫して取り組むようにする。</p>	<p>1 学習のめあてや内容・規則の確認をする。</p> <p>2 チームで作戦を話し合う。</p> <p>3 ペアチームと練習する。</p> <p>4 リーグ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアチームが, 得点係, 記録, 応援を行う。 <p>5 学習をふり返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームの課題に応じた作戦を立てている。 <p>【思・判】 (観察・学習カード)</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作戦を生かしてまとめのゲームを楽しむ。 	<p>1 学習の内容・規則の確認をする。</p> <p>2 チームで練習をする。</p> <p>3 8チームのトーナメント戦を行う。</p> <p>4 学習をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勝敗を受け入れ, 規則を守ってゲームをしようとする。 <p>【関・意・態】 (観察・学習カード)</p>

6 本時の学習

- ① 本時のねらい
- ボールをつなぐための動きのコツを見つけている。【運動についての思考・判断】

② 本時の展開

過程 (時間)	学習活動	○教師の支援 ☆評価の視点【観点】(方法)
10分	1 チームごとに、ネット越しプレルをする。 2 壁打ちプレル、バウンドラリー、円陣パス、ネット越えラリー等を行う。 3 本時のめあて・学習内容を知る。 指 どのような動きを身に付けるのか(学習課題)を明確にすることで、学習の見通しがもてるようにする。	○ 素早く準備して、自主的に運動にとりかかっているチームを認める。 ○ 楽しくスムーズに運動できるように、体育館を4つのエリアに分けてローテーションして回る場を設定したり、音楽を流したりする。 ○ チームカードに結果を記録することで、目標をもって取り組み、自分たちの伸びを自覚できるようにする。また、その成果をみんなで賞賛する。 ○ 本時のめあてが確認しやすいように、立体的な作戦板を用意する。 ○ 見通しを持って学習できるように、学習の進め方を掲示しておく。
ボールをつなぐコツを見つけゲームを楽しもう！		
30分	4 トリプルパスゲームを行う。 ・3対1 ・3回以上で返すと1点。(何回でもよい。一人の連続は×) ・2分で攻守交代 評 自分が考えた動きがどうして成功したのか(理由)を話すことにより動きのコツを知り、共有化する。 5 チームで作戦を確認し、必要があれば作戦の修正を話し合う。 6 作戦の練習を行う。 7 リーグ戦を行う。 ・ペアチームは得点係、記録係、応援を行う。	○ 友だちの動きを見ながら、動きのコツを見つけたり、アドバイスし合ったりするよう促す。 ○ 各チームをまわり、よい動きや発言を賞賛し、広めるようにする。 指 見つけた動きのコツを視覚的にもわかるように「プレルボール：虎の巻」として掲示し、言語活動の充実を促す。 ○ 自分が見つけた動きのコツを伝え合う場を設け、それを子どもたちがイメージしやすい言葉で表現し、動きの高まりにつなげるようにする。 ○ 役割や動きがはっきり確認できるように、作戦カードをもとに話し合うようにする。 ○ ペアチームは、積極的にアドバイスや応援をするよう促す。 ☆ ボールを操作しやすい場所への動き方を見つけている。 【思・判】 (観察・学習カード) 評 単元の半ばにおいて、技能にかかわるコツをみつけていくことを思考・判断とすることもあり得る。
5分	8 チームでゲームをふり返る。 9 学級全体で学習をふり返り、見つけたよい動きやかかわり合いを発表する。	○ チームの話し合いの内容を確認し、必要に応じて助言する。 ○ 「ナイスプレー」「ふわふわ言葉・チームワーク」など、よかったことを中心に発表し、みんなで賞賛し広める。 指 考えられずに活動できない児童への手立て ・友達よかったプレーはどれかな？ ・これまでのコツを参考にしよう。 ・〇〇さんは友達におへそを向けてるね。 ・〇〇さんは声を出してみんなにわかるようにしてるね。 ・どこをねらうといいかな？

③ 本時の評価

評価の観点：運動についての思考・判断

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への支援
ボールの方向へ体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい場所に移動したりする動き方を見つけているとともに、味方が操作しやすい場所にボールを送るための動き方も見つけている。	ボールの方向へ体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい場所に移動したりする動き方を見つけている。	うまくいかない原因が自覚できるような声かけをするとともに「プレルボール：虎の巻」を活用して試そうとするコツを明らかにする。

道徳

1 目標

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことが目標とされている。

道徳の時間においては、この道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	道徳的心情	道徳的判断力	道徳的実践意欲と態度	道徳的習慣
趣旨	道徳的に望ましい感じ方、考え方や行為に対して、逆に、道徳的に望ましくない感じ方、考え方や行為に対して、児童がどのような感情をもっているか。	道徳的諸価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、児童がどのように思考し判断するか。	学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか。	特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているか。

3 改訂の要点

- 道徳教育は、道徳の時間を「要」として、学校の教育活動全体を通じて行う。
道徳教育は、道徳の時間だけで行うのではなく、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動でも行う。道徳の時間は、道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。
- 活用しやすい道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画を作成する。
各教科等、学校の教育活動全体で道徳教育を充実させるために、全体計画、年間指導計画の整備を図り、年間を通して具体的に活用しやすいものを作成する。その際、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心として全教員が共通理解を図って作成する。
道徳教育の全体計画を作成するにあたっては、特に次の点に留意する。

- ・各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を記入する。その際には、それぞれの学校で特に重点として取り組んでいる内容から取りあげていく。
- ・道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等を記入する。
- ・道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等を記入する。
(別葉にして加える)

○ 道徳の時間の指導に当たっては、次の事項に配慮する。

・ **道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実**

校長や教頭などの参加による指導，他の教職員とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導，養護教諭や栄養教諭などの協力を得た指導などを工夫して行う。また，教材や図書の準備，掲示物の充実，資料コーナーの整備を図ったり，道徳の時間に関する授業研修を実施するなど道徳教育推進教師が中心となって全教職員が協力して進める。

・ **体験活動を生かすなどの指導の充実**

集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動などの体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かすなどの工夫をする。これらの体験活動は事前に体験活動を行う意義を児童に十分に理解させ，活動についてあらかじめ調べたりすることなどにより意欲をもって活動できるようにしたり，事後に感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り，まとめたり，伝え合ったりすることなどにより他者と体験を共有したり，広い知識につなげたりすることができるようにする。その際，道徳の時間で直接的な体験活動そのものを行うのではないことを留意する。

・ **魅力的な教材の開発や活用**

道徳の時間において，児童が道徳的価値の自覚を深めるとともに，そのことを通して自己の生き方についての考えを一層深めることができるように，先人の伝記，自然，伝統と文化，スポーツなどを題材とし，児童が感動を覚えるような教材の開発や活用を通して，児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行う。

・ **言葉を生かし考えを深める工夫**

自分の考えを基に，書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し，自分とは異なる考えに接する中で，自分の考えを深め，自らの成長を実感できるようにする。そのために，学習を通して児童が何に気付いたり，何を理解したり，どのような考えや思いが深まったりするのかを予想して授業に臨み，話し合いの工夫，表現活動の工夫等，多様な指導方法を効果的に生かすようにする。

・ **情報モラルの問題に留意した指導**

個人情報保護，人権侵害，著作権等に対する対応，危険回避やネットワーク上のルール，マナーなどの情報モラルに関する指導を配慮する。その際，情報モラルに関する題材を生かしたり，情報機器のある環境を生かしたりして，ネット上の書き込みのすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題，情報を生かすときに法やきまりの遵守に伴う問題など，多岐にわたった内容を取り入れる。

○ 児童の発達の段階や特性を踏まえた指導内容の重点化

- ・ 各学年を通じて，自立心や自律性，自他の生命を尊重する心を育成する。
- ・ 低学年では，あいさつなどの基本的な生活習慣，社会生活上のきまりを身に付け，善悪を判断し，人間としてしてはならないことをしないことについて配慮する。
- ・ 中学年では，集団や社会のきまりを守り，身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けることに配慮する。
- ・ 高学年では，法やきまりの意義を理解すること，相手の立場を理解し，支え合う態度を身に付けること，集団における役割と責任を果たすこと，国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮する。

4 本時の展開例

- 1) 主題名 しっかりやろうね 1 – (2) 勤勉・努力 第2学年
- 2) 資料名 「書き方の時間のこと」
- 3) ねらい 自分がやらなければならない勉強や仕事は、最後まで一生懸命しようとする心情を育てる。

指 指導の重点が道徳的心情・判断力・態度のどの側面にあるのかを明確にすることで授業展開の方向づけをする。

評価の観点【道徳的心情】

自分がやらなければならないことの大切さを感じ取り、最後まで一生懸命やり遂げることによってうれしい気持ちをもっている。

評 道徳の時間は数値などによる評価は行わないこととされているが、指導と評価を一体化するために、評価の観点を明確にし、授業の中で期待する児童の姿を明らかにしておく。

4) 主題設定の理由

- ① ねらいとする道徳的価値について (略)
- ② ねらいにかかわる児童の実態 (略)
- ③ 指導にあたって (略)

評 事前の評価

児童のもつ道徳的価値の実態を日常生活の中から評価し、主題名やねらい、資料選定等に活かす。

5) 本時の学習

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導者の支援及び留意点
<p>指 子どもの興味・関心を高めたりねらいとする道徳的価値の自覚に向けて動機づけを図る。</p> <p>1 自分たちの普段の生活について話し合う。</p> <p><導入></p>	<p>○ やらなければならないのに、途中でやめたり一生懸命できなかったりしたことはありませんか。</p> <p>・宿題をしなければいけなかったのに、テレビを見てしまって宿題をできなかった。</p> <p>・係の仕事をしなければいけないのに、遊びたくていい加減にしてしまった。</p>	<p>・資料を読んだとき、主人公に共感するために自分の生活を振り返り、2～3の事例を取りあげてから資料に入る。</p>
<p>2 資料「書き方の時間のこと」を読んで話し合う。</p> <p>指 評価の観点に即して多様な感じ方や考え方が引き出されるように、発問を十分吟味する。</p>	<p>○ 手が疲れてきたとき、ともくんはどんなことを思ったでしょうか。</p> <p>・疲れたな。</p> <p>・面倒だな。</p> <p>・はやく終わらせたいな。</p> <p>・僕もドッジボールがしたいな。</p> <p>・いい加減に書いてしまおう。</p> <p>◎ 「あと1回でいいから、ともくんの字をしっかりと書いていっちゃい。」と言われて、もう一度書き始めたともくんは、心の中で何と言っているでしょうか。</p> <p><いやいや書く></p> <p>・もう、疲れたので書きたくないな。</p> <p>・面倒だな。</p>	<p>・手が疲れ早く終わらせたいという、ともくんの思いに共感させ、もう一度書くことになったともくんの気持ちを考えることにつなげる。</p> <p>評 資料中の登場人物の行為や心の動きに共感しているのかを、観察や発言等、評価の観点に対応した評価方法により捉える。</p>

<p>指 学習指導過程の各段階で、ねらいに迫るために児童の発言や心の動きなど、予想される児童の様相を示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また、書くのか。 ・せっかく書いたのに。 <p><どちらとも言えない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばりたいけれど疲れたな。 ・先生に言われたから、仕方がないな。 ・さらさらと書いたから、仕方がないな。 ・最後まで、丁寧に書いておけばよかった。 <p><がんばって書こう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に言われたからがんばるぞ。 ・面倒だけれどがんばるぞ。 ・はねと止めに気をつけて書くぞ。 ・よし、僕の本気の字を書くぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ともくんの置かれた状況を把握し、ともくんの気持ちを実感するために動作化を取り入れる。 ・心のバロメーターを使い、ともくんの微妙な心の葛藤を表現する。 <p>評 動作化等、児童の表現活動を工夫し、児童の心の変化などを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見の違いを視覚的に捉えられるように分類して板書する。 <p>◇ 心のバロメーターの操作を通して、ともくんの気持ちを考える。 (操作観察、発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の行動と重ね合わせて振り返っている児童がいれば積極的に取り上げる。
<p>3 自分の生活を振り返ってみる。</p>	<p>○ 「これがともくんの字ですね。」とほめられたとき、ともくんはどんなことを思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめられてうれしいな。 ・丁寧に書いてよかったな。 ・集中すると、疲れやドッジボールのことも忘れてしまうんだな。 ・僕もがんばればできるんだ。 <p>○ 一生懸命がんばったことや、もう少し頑張ればよかったなあと考えたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中でいい加減に色を塗りかけただけけれど、一生懸命仕上げたら、いい絵ができてうれしかった。 ・掃除が面倒だったけれど、がんばったら先生にほめられてうれしかった。 ・漢字練習で書き直しになったけれど、一生懸命書いたら何だかいい気持ちでした。 ・テレビが見たくて、宿題をいい加減にしてしまっていけなかった。 <p>指 書く活動は、自分の考えを深めたり整理したりという重要な役割をもつ。児童の考えや心の動きを捉えたり、必要な時間を確保したり個別化を図ったりしながら、指導方法を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張ってたよかったことや、もう少し頑張ればよかったことをワークシートに書くことにより、いままでの自分を振り返るようにする。 <p>◇ 自分の生活を見つめ、くじけず努力することの大切さに気付いたり、できているうれしさを感じたりしている。 (ワークシート、観察)</p> <p>指 ねらいとする道徳的価値を視点に自分自身を振り返ることができているか。</p>
<p>4 教師の話を聞く。</p> <p><展開></p> <p><終末></p>	<p>○ 一生懸命がんばった友達の話をします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命取り組んだ後に、すがすがしい気持ちになった児童の体験を話す。

○ 本時の評価（期待する学びの姿）

困ったけれども最後までやり遂げた自分の経験を想起して、ワークシートに書いている。

評 <本時の評価>

本時の評価は、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める学習ができたかどうか」を評価することになる。それは、本時の学習指導が適切であったのかを見直すことにつながる。

例) 資料の中心場面として特定した場面は、ねらいとする道徳的価値にかかわる場面であったのか。

・中心発問は、登場人物の気持ちを自分とのかかわりで考えることのできるものであったのか。

・書く活動は、自分自身がどうであったかを振り返ることができるようにワークシートの吹き出しとしたが、適切であったのか。などこのように、道徳の時間において道徳実践力を育成するためには、地道な評価の積み上げと、着実な授業の実践が大切である。

<事後の評価>

授業終了時の児童の変化等を評価したり一定期間にわたる変化の様子等を見届けたりして、個に応じた指導や学級全体の指導に生かす。

外国語活動

1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言語の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

3 新設の要点

- 小学校段階で外国語に触れたり、体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校において**コミュニケーション能力を育成するための素地をつくる**ことが重要である。したがって、音声や基本的な表現の習得に偏重して指導したり、「聞くことができること」や「話すことができること」などの**スキル向上のみを目標とした指導は行わない**。
- 外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって**身近なコミュニケーションの場面を設定**する。
- 外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、**音声面を中心**とし、アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる。
- 外国語活動を通して、**外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深める**指導を行う。
- 指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの**他教科等で児童が学習したことを活用**するなどの工夫により、指導の効果を高める。
- 指導計画の作成や授業は、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行う。
- 授業の実施に当たっては、**ネイティブ・スピーカーの活用**に努めるとともに、地域の実態に応じて、**外国語に堪能な人々の協力を得る**など、指導体制を充実させる。
- 音声を取り扱う場合には、**CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用**する。
- 中学校外国語科教員を含め、中学校区ごとに年間指導計画に係る情報交換の場を設定したり、授業公開を行ったりするなど**小中及び小学校間の連携**を図る。

4 評価規準と本時の展開例

1) 単元名

英語ノート2 Lesson 4 I can swim. ～できることを紹介しよう～

2) 単元のねらい

- ・積極的に友だちに「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・「できる」「できない」の表現に慣れ親しむ。 【外国語への慣れ親しみ】
- ・日本や外国には様々なスポーツ、遊び、文化等があることに気付く。 【言語や文化に関する気付き】

3) 語彙・表現

- ・ねらいとなる表現 I can ～ . I can't (cannot) ～ . Can you ～ ? Yes, I can. No, I can't.
- ・ 語句 fly, sing, penguin, hippo, bird, fish, play baseball, play soccer, play table tennis, play kendama, play the guitar, play the piano, swim, cook, ride a unicycle など

4) 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
積極的に友だちに「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしている。	「できること」を尋ねたり、「できること」や「できないこと」を言ったりしている。	「できること」や「できないこと」を尋ね合う活動を通して、日本や外国には様々なスポーツ、遊び、文化等があることに気付いている。

5) 単元指導計画と評価計画

評 観点がゆるやかに「言語や文化に関する気付き」→「外国語への慣れ親しみ」→「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」となるよう単元を設定し、1時間1時間の授業が細切れにならないよう配慮を行う。

時	目 標	主な学習活動	評 価	
			コ 慣 気	評価規準（評価方法）
第1時	日本や外国には様々なスポーツ、遊び、文化等があることに気付く。	① あいさつをする。 ② 学習のめあてと流れを確認する。 ③ ジェスチャーゲームをし、動詞＋目的語の表現を知る。 ④ 動物“Who am I?”クイズをし、「～できる」「～できない」の表現を知る。 ⑤ Let's Listen ①をする。 ⑥ ♪ Let's Chant “I can swim.” ⑦ 振り返りをし、あいさつをする。	○	日本や外国には様々なスポーツ、遊び、文化等があることに気付いている。（行動観察、振り返りカード点検）

評 「振り返りカード」等を活用する。その際、児童同士でお互いの取組について評価をさせるなど言語活動の充実を図る。

第2時	動詞 + 目的語の表現に慣れ親しむとともに、「ショー・アンド・テル」の発表の準備に積極的に取り組む。	① あいさつをする。 ② 学習のめあてと流れを確認する。 ③ ♪ Let's Chant "I can swim." ④ Activity ①の動詞 + 目的語の表現を使ったミッシングゲームを行う。 ⑤ Activity 「ショー・アンド・テル」の準備をする。 ⑥ 振り返りをし、あいさつをする。		○	ミッシングゲームで取り扱う動詞 + 目的語の表現を聞いたり、言ったりしている。(行動観察、振り返りカード点検)
第3時	どのようなことができるかを友だちに尋ねたり答えたりする。 指 「できること」「できないこと」についての英語表現を選ぶ際は、学級の児童の実態に合ったものを選ぶなど児童の意欲を高める工夫を行う。	① あいさつをする。 ② 学習のめあてと流れを確認する。 ③ ♪ Let's Chant "I can swim." ④ Activity ①の動詞 + 目的語の表現に第2時の「ショー・アンド・テル」の準備で児童が取り上げた表現を加えてミッシングゲームを行う。 ⑤ "Can you ~?" の表現を知り、Activity ①をする。 ⑥ 振り返りをし、あいさつをする。		○	どのようなことができるかを友だちに尋ねたり答えたりしている。(行動観察、英語ノート点検)
第4時 (本時)	「できる」「できない」の表現を使いながら、友だち同士で積極的にやりとりを行う。 指 同じ英語表現を異なるゲーム等で繰り返し用いることで、自然な発話を促すようにする。	① あいさつをする。 ② 学習のめあてと流れを確認する。 ③ ♪ Let's Chant "I can swim." ④ 第3時で取り扱った動詞 + 目的語の表現等を使ったミッシングゲームを行う。 ⑤ "Can you ~?" の表現を確認し、友だち "Who am I?" クイズをする。 ⑥ 「できる・できない」ビンゴゲームをする。 ⑦ Let's Listen ②をする。 ⑧ 振り返りをし、あいさつをする。		○ ○	クイズやゲームを通し、「できる」「できない」の表現を使いながら、積極的にやりとりを行っている。(行動観察、ビンゴシート・振り返りカード点検)
第5時	「ショー・アンド・テル」の場で、相手に伝えるように工夫して、自分のことを発表したり、興味を持って友だちの発表を聞いたりする。 指 単元の最後に、「ショー・アンド・テル」のように児童同士が自分の思いや考えを主体的に伝え合うような活動を行う単元構成とし、言語活動の充実を図る。	① あいさつをする。 ② 学習のめあてと流れを確認する。 ③ ♪ Let's Chant "I can swim." ④ グループで Activity 「ショー・アンド・テル」をする。 ⑤ 学級全体で Activity 「ショー・アンド・テル」をする。 ⑥ 振り返りをし、あいさつをする。		○ ○	相手に伝えるように工夫して、自分のことを発表したり、興味を持って友だちの発表を聞いたりしている。(行動観察、振り返りカード点検)

コ：コミュニケーションへの関心・意欲・態度
慣：外国語への慣れ親しみ
気：言語や文化に関する気付き

6) 本時の活動

① 本時のねらい

- 自分や友だちに関係する「できる」「できない」の表現を使いながら、友だち同士で積極的にやりとりを行う。

【外国語への慣れ親しみ】

② 本時の展開

時 (分)	学習活動	教師の支援		☆評価 ○教材
		HRT	ALT	
4	① あいさつをする。 ② 学習のめあてと流れを知る。	・笑顔であいさつをし、活動の雰囲気を作る。 ・見通しが持てるように、授業の流れを提示する。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 評 活動中に児童の取組について見取り等で評価を行い、振り返りカードのみで評価を行わないよう配慮する。 </div>
2	③ ♪ Let's Chant "I can swim."	I will explain today's plan. First, we will do the chant. Let's do the chant together.	・自信を持って発音できるように机間支援をする。 ・はっきりと発音したりほめたりし、意欲を高める。	
4	④ 動詞 + 目的語の表現を使ったミッシングゲームを行う。	Let's play the missing game. Repeat after Martin sensei. What's missing? ・ミッシングゲームを取り入れながら復習する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 指 チャンツ等で英語表現の口慣らしを行う際は、児童を飽きさせないようにリズム等に変化をもたせるとともに、チャンツ等を行う時間が長くないよう配慮する。 </div>	
15	⑤ 友だち "Who am I?" クイズをする。	Let's play the "Who am I?" quiz, 6nen 2kumi version! I will explain the rules. ・デモンストレーションを行いながらルールを説明する。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 指 児童同士に情報の差がある事柄を扱うなど、児童が主体的に取り組める活動を設定する。 </div>
10	⑥ Activity ①「できる・できない」ビンゴゲームをする。	Let's play Bingo! I will explain the rules. ・デモンストレーションを行いながらルールを説明する。	I am a boy. Who am I? Please ask me some questions.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 評 実際に活動中に見取れる児童の具体的な姿を書く。 </div>
6	⑦ Let's Listen ②をする。	Let's listen. Open your textbook to page 25.	・自信を持ってやりとりができるように一緒に言ったり、反応したりする。 ・"can't" の聞き取りが難しい児童には、"cannot" を使い繰り返す。	☆ 自分や友だちに関係する「できる」「できない」の表現を使いながら、友だち同士で積極的にやりとりを行っている。(外国語への慣れ親しみ：行動観察、ビンゴシート点検)
4	⑧ 振り返りをし、あいさつをする。	<i>Furikaeri</i> time. Good Ear チャンピオン, Clear Voice チャンピオン Good Try チャンピオン等を選んだり、友だち同士で頑張ったことを相互評価したりする。		○ 電子教材 ○ 振り返りカード
		That's all for today.	See you.	

評 様々な視点から評価を行い、個々の児童のよさが出るように配慮する。また、児童同士でよさを言い合い、認め合う場とすることで言語活動の充実を図る。

③ 本時の評価 (おおむね満足できる子どもの姿)

自分や友だちに関係する「できる」「できない」の表現を使いながら、友だち同士で積極的にやりとりを行っている。

総合的な学習の時間

1 目標

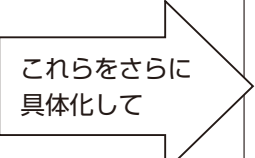
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

2 評価の観点及びその趣旨

総合的な学習の時間の評価においても、観点別の学習状況評価を基本とする。評価の観点は、各学校において定めた目標、内容、資質、能力及び態度を踏まえて設定する。

その際に、次の①～③の例を参考にしながら、それぞれを組み合わせたり具体化したりして、各学校に応じた観点を設定する。

○ 各学校が設定する評価の観点例

① 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標に基づいた観点例	
「よりよく問題を解決する資質や能力」 「学び方やものの考え方」 「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」 「自己の生き方」 等	
② 学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って、各学校において育てようとする資質や能力等に基づいた観点例	
〈例1〉 「学習方法」 「自分自身」 「他者や社会とのかかわり」等	〈例2〉 「課題設定の力」(学習方法) 「情報収集の力」(学習方法) 「将来展望の力」(自分自身) 「社会参画の力」(他者や社会とのかかわり)等
これらをさらに 具体化して 	
③ 各教科の評価の観点との関連を明確にした観点例	
学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」 「思考・判断・表現」 「技能」 「知識・理解」等	

3 改訂の要点

- 問題解決的な学習が発展的に繰り返されていくよう、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連のプロセスを持った**探究的な学習**となることを目指す。
- 問題の解決や探究活動の過程において、**他者と協同**して問題を解決しようとする学習活動を行う。
- 問題の解決や探究活動の過程に、人や社会、自然にかかわる直接的な**体験活動**を適切に位置付ける。

- 学習の過程において、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの言語活動を適切に位置付ける。
- 小中学校間での連携を密接に行い、学校段階間で取組の重複がないように配慮する。

4 評価規準と本時の展開例

1) 単元名 第6学年

過去から未来へ～ふるさとの伝統文化を未来に残そう～

2) 単元のねらい

- ・地域の伝統文化を伝えたり、守ったりするために解決すべき課題を明らかにし、その実現に向けて追究する。 **【学習方法】**
- ・伝統文化の保存、継承にかかわる人たちの思いを受け止めて、自分の生活や行動とかかわらせながら、自分にできることを考え、実践しようとする。 **【自分自身】**
- ・課題解決に向け友達と協力して活動したり、地域の方々の思いや願いを理解しようとする。 **【他者や社会とのかかわり】**

3) 単元の評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわり
① 地域の伝統文化を守り、伝えるために解決すべき課題を明らかにしている。 ② 課題解決に向け必要な情報を集め、比較、分析しながら自分なりの考えをまとめている。	① 地域の伝統文化を守り、伝えるために自分のできることを明らかにしている。	① 異なる考えや意見も受け入れながら、友達と協力して活動している。 ② 地域の方々の思いや願いを理解しようとする。積極的に話を聴いたり、尋ねたりしている。

4) 単元計画と評価計画 (全 25 時間)

学習活動	時数	教師の指導・支援	評 価		他 教 科 等 の 関 連
			学習方法	自分自身	
○ 地域の伝統文化に触れる。 ・地域の文化イベントに参加する。 【共通体験】 指 児童の課題意識を高めるよう、地域の伝統文化やそれにかかわる人との出会いの場を設定する。 ・感じたことや考えたこと等を書き出す。 ・代表の方の話を聞く。 ・学習のテーマを設定し、これからの学習の計画を立てる。	5	指 活動の対象をできるだけ幅広く探索できる工夫をすることで、言語活動の充実を図る。 ・整理の方法としてKJ法を活用させる。 ・課題設定に向け地域の方の思いを知るきっかけとする。 ・マッピング等を活用してよりイメージを広げさせる。 ・発信のねらい、対象や方法等の見通しを持たせる。	①	②	指 異なる評価方法を組み合わせることで多様な評価とする。 情報カード・付箋紙 マッピングシート 行動観察 振り返りカード 道徳 4 (7)

○ テーマごとにグループに分かれ、課題解決に向けた調査計画を立て、情報収集する。	7	・毎時間の各グループの進捗状況を把握し、助言や情報提供をしている。	②		① ②	情報カード行動観察 振り返りカード	
--	---	-----------------------------------	---	--	--------	----------------------	--

指 多様な情報を収集するために、人的・物的資源も活用させる。

マッピング：発想を広げるために、ある事物から連想する言葉をシート上に広げ拡散的に思考を巡らせる手法

○ 調べたことからを整理して考えをまとめる。 ・必要な情報をまとまりごとに整理する。 ・複数の情報を比べながら、自分たちの考えをまとめる。 ・発表に使う情報や考えを整理する。 ○ 情報交換会をする。 ・発表に使う資料や伝えたい事柄などを紹介し合い意見交換する。 ・話し合いの結果を生かして情報収集や整理分析を続ける。	6 本時	・情報整理の方法を示して、適切な方法を選択して活用させる。 ・発表する資料や意見の構成を整理させる。 ・当初のねらいに合っているかという視点で話し合わせる。	②	①	①	情報カード ワークシート・ 付箋紙 行動観察 振り返りカード	国語 A (1) ア A (1) エ
--	---------	--	---	---	---	--	--------------------------------

指 国語科で身に付けた話す・聞く能力や書く能力が発揮されるように学習活動を工夫する。

指 他人の意見を発表に生かすため、情報交換会の振り返りを行い、情報の差し替えや加除修正をさせる。

○ 収集した情報を再構成した上で、グループごとに発表に向けた準備をする。 ○ プレ発表会を行う。	4	・構成を工夫することで、主張する点がはっきりするようにまとめさせる。 ・キーワードだけを記した発表原稿を使ったり、発表資料を指差したりしながら発表ができるようにさせる。 ・相手を意識した発表になっているかを点検させる。 ・みんなからの意見をもとに資料や発表の仕方を修正させる。		①	①	行動観察 発表資料 発表メモ 振り返りカード	国語 A (1) イ B (1) エ
---	---	---	--	---	---	---------------------------------	--------------------------------

指 発表内容を修正するときに生かせるよう、点検の視点をはっきりさせる。

○ 学習発表会で保護者や地域の方に発表する。 ・これまでの活動を振り返る。	3			①		行動観察 ワークシート 振り返りカード	国語 A (1) イ
--	---	--	--	---	--	---------------------------	------------------

5) 本時の活動

① 本時のねらい (第3次 13～14時 / 25時)

・ 収集した情報をテーマに沿って整理し、適切な方法で分析する。

【学習方法に関すること～整理・分析～】

・ 整理・分析の適切な方法を協同的に考える。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価 (評価方法)
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="268 577 679 651" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>調べたことを整理するのに適切な方法を考えよう。</p> </div> <p>2 グループで情報の整理をし、分析の方法を考える。</p> <p>(1) 整理の仕方を考える。</p> <p>① 調べたことや集めた資料を紹介し合う。</p> <p>② 集めた情報を仲間わけしたり、取捨選択したりする。</p> <p>(2) 分析の方法を考える。</p> <p>① グラフや図表、マップなど情報を分析する方法を考える。</p> <p>② 選んだ方法で情報の分析をする。</p> <p>3 活動の状況を確認しあう。</p> <p>整理の方法や作業の進捗状況を紹介し合う。</p>	<p>○ テーマ設定時のねらいを確認させる。</p> <p>○ 整理の方法として活用できそうなものを紹介する。</p> <div data-bbox="703 797 1078 920" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>指 情報を「比べる」「関連付ける」ことを意識させるために、個別の声がけにより支援する。</p> </div> <div data-bbox="703 1093 1078 1216" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>指 互いの考えを伝え合い、自分の考えと友だちの考えを比較させることで、言語活動の充実を図る。</p> </div> <p>○ 各グループの状況を知らせ合うことにより、励ましや参考になることを伝え合わせる。</p> <p>○ 伝え合いが次時以降の情報の分析に役立つよう、感想や意見のポイントを板書に整理して示す。</p>	<div data-bbox="1206 882 1434 1032" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>評 友だちの意見と自分の意見を比べながら考えをまとめようとしているか。</p> </div> <p>☆ 情報の整理や、分析の方法について友だちと話し合いながら進めている。</p> <p>(行動観察) (振り返りカード)</p>

③ 本時の評価 (おおむね満足と判断される児童の具体例)

- ・ 収集した情報について、整理した上で、方法を考えて分析している。
- ・ 情報の適切な整理・分析の方法を協同的に考えている。



特別活動

1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
趣旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

3 特別活動改訂の要点

- 望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、**よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。**
- **道徳的実践の指導の充実を図る**観点から目標や内容を見直す。
- 特別活動の目標を受けて、各活動・学校行事を通して**育てたい態度や能力を各内容の目標として新たに示す。**
- 学級活動においては、よりよい人間関係を築き、楽しい生活をつくるなど、自分たちの学級や学校の生活の充実と向上のために主体的に参画し、進んで話し合い、協力して実現しようとする自主的、実践的な態度の育成を重視し、学級集団の育成上の課題や発達の課題に即した指導ができるようにするため、低・中・高学年ごとに「内容」を示す。
- 児童会活動においては、年齢が異なる児童同士の人間関係を築き、楽しい生活をつくるなど自分たちの学校生活の向上を目指して、進んで話し合い、協力して実現しようとする自主的、実践的な態度の育成を重視する。
- クラブ活動においては、個性を伸長し、異年齢の人間関係を築き、共通の興味・関心を追求する活動を楽しむなど、児童による自発的、自治的な活動を重視する。
- 学校行事においては、よりよい人間関係を築き、公共の精神を養い、社会性の育成を図ることを重視する。
- 指導計画の作成に当たっては、各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導と**関連を図り**、指導方法や教材を工夫する。
- **体験活動や集団活動を重視**し、体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動や、意見の異なる人と折り合いを付けたり、他者と議論して集団としての意見をまとめたりする活動を展開し、**言語活動の充実を図る。**

○ 学級活動の活動内容の特質を踏まえた活動過程（例）

	内容(1) 学級や学校の生活づくり	内容(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全
事前の活動	<p>課題の発見</p> <p>↓</p> <p>共同の問題(活動)の設定</p> <p>↓</p> <p>議題の決定</p> <p>↓</p> <p>計画の作成</p> <p>↓</p> <p>問題の意識化</p> <p>教師の適切な指導の下に、児童が次の活動を行う。</p> <p>① よりよい学級や学校の生活づくりにかかる諸問題を見付け、提案をする。</p> <p>② 協力して達成したり、解決したりする共同の問題(活動)を決めて、問題意識を共有化する。</p> <p>③ 目標を達成したり、問題を解決したりするために、全員で話し合うべき「議題」を決める。</p> <p>④ 話し合いの柱や順番など、話し合い活動(学級会)の活動計画を作成する。(教師は指導計画)</p> <p>⑤ 話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自己の考えをまとめるなど問題意識をもつ。</p>	<p>課題の確認</p> <p>↓</p> <p>共通の問題(活動)の設定</p> <p>↓</p> <p>題材の決定</p> <p>↓</p> <p>計画の作成</p> <p>↓</p> <p>問題の意識化</p> <p>教師が意図的、計画的な指導構想の下に次のようなことを行う。</p> <p>① 年間指導計画において取り上げる題材についての学級の児童の問題の状況などを確認する。</p> <p>② 個々の児童が共通に解決すべき問題として授業で取り上げる内容を決めて、児童に伝え、問題意識を共有化させる。</p> <p>③ 個々の児童が共通に解決すべき問題として「題材(名)」を決める。</p> <p>④ 導入、展開、終末の指導計画を作成し事前調査をしたり、資料を作成したりする(発達段階に即して児童の自主的な活動を取り入れるようにする)。</p> <p>⑤ 授業において取り上げる問題について自分の現状について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識をもつ。</p>
本時の活動	<p>話し合い活動</p> <p>集団討議による集団目標の集団決定</p> <p>○ 協力してよりよい学級や学校の生活をつくるために集団として実践するための目標や方法、内容などを決める(提案理由の理解→意見の交換→多様な意見を生かしたよりよい集団決定をする)。</p>	<p>話し合い活動</p> <p>集団思考を生かした個人目標の自己決定</p> <p>○ 自分の問題の状況を理解し、個人として解決するための目標や方法、内容などを決める(問題の状況や原因の把握→解決や対処の仕方などについて共に考える→自分としての解決方法などを自己決定する)。</p>
事後の活動	<p>○ 集団決定したことを基に、役割を分担し全員で協力して、目標の実現を目指す。</p> <p>○ 活動の成果について振り返り、評価をする。</p>	<p>○ 自己決定したことを基に、個人として努力し、目標の実現を目指す。</p> <p>○ 努力の成果について振り返り、評価をする。</p>

出典：小学校学習指導要領解説 特別活動編

4 評価規準と本時の展開例<活動内容(1)>(中学年)

1) 議題名 「おじいさん・おばあさん方に楽しんでもらえる活動を考えよう」

(高齢者学級との交流会の計画)

2) 児童の実態と議題選定の理由

(省略)

3) 評価規準

評 事前の活動から事後の活動までを含めた評価規準を書く。

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
・おじいさん・おばあさん方への感謝の気持ちを持ち、交流会についての話し合いに進んで取り組もうとしている。	・おじいさん・おばあさん方に楽しんでもらえる活動を考え、実践している。 ・出された意見を整理しながら、話し合いを進行している。(計画委員)	・交流会の意義、話し合いで決定したことや自分の役割を理解している。

4) 指導計画と評価計画

	日時	活動内容	対象	評価(★計画委員の評価)
事前の活動	6月2日まで	・ 昨年の交流会を振り返る。	全員	・ 交流会を楽しみにしている。 【関心・意欲・態度】
	6月2日(月) 業間	・ 議題の選定。	計画委員	指 話し合い、実践する意義を児童が理解できるように説明することが大切である。
	6月2日(月) 終礼	・ 議題の決定。	全員	
	6月3日～4日 昼休み・放課後	・ 話し合いの計画をたてる。 ・ 役割分担、話し合いのめあて、話し合いの柱などを決め、「話し合い計画カード」に記入する。 ・ 話し合いで気をつけることなどを確認し、話し合いの進め方について相談する。	計画委員	★ 話し合いの柱を考えている。 【思考・判断・実践】 ★ 話し合いの進め方を理解している。 【知識・理解】
	6月5日(木)	・ 自分の考えを「学級会カード」に記入する。 指 教師が事前に児童の考えを把握することが大切である。「学級会カード」に書かれた意見をもとに話し合いのスムーズな運営を考えたり、児童の意欲を高めるような手だてを工夫したりすることにつながる。	全員	・ 自分に関係あることとしてとらえ、話し合いを楽しみにしている。【関心・意欲・態度】 ・ 話し合いの内容、学級会カードの書き方を理解している。 【知識・理解】
	6月5日(木) 昼休み	・ 話し合いの進め方について相談する。	計画委員	
話し合い	6月6日(金) 5時間目(本時)	・ 交流会の内容について話し合い、決定する。 評 毎時間3観点すべてについて評価するのではなく、事前の活動・本時・事後の活動など一連の活動の中で評価する。	全員	・ 友だちの意見を聞き、お互いの思いを受け止めて、考えている。【思考・判断・実践】 ★ 「話し合い計画カード」を使って話し合いを進めている。 【思考・判断・実践】
事後の活動	6月9日(月) 朝礼	・ 話し合いで決まったことを「学級会コーナー」に掲示する。	企画委員	
	6月9日～12日	・ 役割分担をする。 ・ 交流会に向けて準備をする。	全員	・ 決まったことに協力し、進んで準備に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】
	6月13日(金)	・ 高齢者学級との交流会	全員	・ 友達と協力し、進んで交流会に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】

評 終礼の時間などを活用して、これまでの活動全体を振り返る機会をもうける。

5) 本時の活動

指 話し合いの計画は、教師の協力を得ながら児童が立てることが大切である。また、低学年の指導では児童の発達段階に応じて、司会、黒板書記、ノート書記などの役割を教師と一緒に進めることが効果的である。

① 本時のねらい

- ・ 高齢者学級の方が楽しめる活動内容を考え、進んで意見を述べたり、友達の意見を聞くことができる。
- ・ 「話し合い計画カード」にしたがって意見をまとめながら、話し合いを進めることができる。(計画委員)

【思考・判断・実践】

② 学習活動

議 題	おじいさん・おばあさん方に楽しんでもらえる活動を考えよう。	
提案理由	6月13日に「高齢者学級との交流会」があります。いろいろお世話になっている地域の方に喜んでもらえる交流会を開きたいので提案しました。	
	活動内容と予想される意見	教師の支援
1 はじめのことば	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画委員会の進行で話し合いを始める。 ・ 議題、提案理由を黒板に掲示する。 ・ 計画委員会が「話し合いの柱」と「話し合いのポイント」を説明する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>話し合いの柱 1 どんな活動をするか。</p> <p>話し合いの柱 2 どんな係があるとよいか。</p> <p>「話し合いのポイント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで楽しめる内容を考える。 ・ 場所や時間にあつた活動を考える。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カレンダー形式の計画表を学級会コーナーに掲示し、見直しをもって計画をたてるができるようにする。 ・ 計画委員の紹介では、自分の役割に対するめあてを発表し、役割意識が高まるようにする。 ・ 「高齢者学級との交流会」の中の「ふれあい活動」の時間について話し合うことを確認する。 ・ 時間設定や場所などあらかじめ決まっている条件を伝え、掲示しておく。 ・ 「学級会カード」に肯定的なコメントを書き、発表への意欲付けを図る。
2 計画委員の紹介		
3 議題の確認		
4 めあての確認		
5 提案理由の説明		
6 話し合い	<p>[話し合いの柱 1] どんな活動をするか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の遊び ・ ゲーム ・ 歌発表 ・ 学校クイズ ・ プレゼントわたし… <p>[話し合いの柱 2] どんな係があるとよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進行係 ・ 準備係 ・ 説明係 ・ プレゼント係 ・ ルールを説明する係… 	<p>指 「話し合いのポイント」を振り所にして話し合いを焦点化することができる。意見を整理したり、方向性を示すことで全員が話し合い活動に参加できるようにする。</p> <p>・ 多数決で簡単に決めるのではなく、条件をつけて賛成したり関連付けたりするなど、折り合いをつけながら進めていくよう事前に助言しておく。</p>
① 意見を発表する。		<p>評 学級活動に限らず、ワークシート等にただ単に本時の感想を書かせるのではなく、本時のねらいにつながるような聞き方を工夫することが大切である。</p> <p>評 計画委員の努力を事前の活動も含めてねぎらうなど、児童の主体的な活動につながるような肯定的な評価を行うことが大切である。</p>
② 意見交換をする。		
③ 集団決定する。		
7 決まったことの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画委員が決まったことを発表する。 	
8 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を発表する。話し合いの振り返りを「ふりかえりカード」に書く。 	
9 教師の話	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いを深める発言や折り合いをつける発言、実践を意識した発言、思いやりのある発言や相手の立場を考えた発言、アイデアに富んだ発言、進行を助ける発言など取り上げる。 	
10 おわりのことば		

評 特別活動の評価は2段階程度の幅の広いものである。

③ 本時の評価 (おおむね満足できると判断される児童の具体例)

- ・ 高齢者学級の方に楽しんでもらえる活動を考え、理由を明確にして自分の意見を言ったり、友だちの意見を最後まで聞いたりしている。
- ・ 「話し合い計画カード」にしたがって意見を整理して進行している。(計画委員会)

評 学級活動の内容(1)については事前、本時、事後の一連の活動の中で評価するが、本時の活動の中でめざす子どもの姿をあらかじめしておく。

8

指導要録の改善

1) 評定

- 簡潔で分かりやすい情報を提供するものとして、児童の教科の学習状況を総括的に評価するものです。
- 教師同士の情報共有や保護者等への説明のために有効です。

2) 外国語活動

- 学習指導要領の目標等に沿って評価の観点を「設置者」が設定します。文章の記述により評価を行います。
- 評価の観点については、中学校・高等学校の外国語科との連続性に配慮して設定します。
- 文部科学省が示している評価の観点は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」の3つです。

3) 総合的な学習の時間

- 学校において、学習活動・評価の観点を記載し、文章の記述により評価を行います。
- 評価の観点の例として、「学習方法に関すること」等の視点に沿って、**各学校において**育てようとする資質や能力等を踏まえて定めます。

評価の観点の例

- ① 学習指導要領の総合的な学習の時間の目標に基づいた観点
- ② 学習指導要領に示された「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」などの視点を踏まえて定めた資質や能力等に基づいた観点
- ③ 各教科の評価の観点との関連を明確にした観点（総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」等）

4) 特別活動

- 新学習指導要領では、各活動・学校行事に新たに目標を規定しています。このことを踏まえ、**各学校において**定めた**特別活動全体に係る評価の観点**により評価を行います。

評価の観点の例

- ① 「集団活動や生活への関心・意欲・態度」
- ② 「集団の一員としての思考・判断・実践」
- ③ 「集団活動や生活についての知識・理解」

5) 行動の記録

- 学校生活全体にわたって認められる児童の行動について評価を行います。
- **設置者**は、学習指導要領等の総則、道徳の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえ示している項目を参考にして、項目を適切に設定します。

6) 総合所見及び指導上参考となる諸事項

- 児童の成長の状況を総合的にとらえ、
 - ① 各教科や外国語活動、総合的な学習の時間の学習に関する所見、
 - ② 特別活動に関する事実及び所見、
 - ③ 行動に関する所見、
 - ④ 児童の特徴・特技等
 - ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見等を記述します。
- 個人内評価（観点別学習状況の評価や評定では十分示しきれない一人一人の良い点や可能性などを記入）を適切に記述します。

※指導要録の法的根拠

学校教育法施行規則第 24 条

校長は、その学校に在学する児童等の指導要録（学校教育法施行令第三十一条に規定する児童等の学習及び健康の状況を記録した書類の原本をいう。以下同じ。）を作成しなければならない。

学校教育法施行令第 31 条

公立又は私立の学校（私立の大学及び高等専門学校を除く。）が廃止されたときは、市町村又は都道府県の設置する学校（大学を除く。）については当該学校を設置していた市町村又は都道府県の教育委員会が、（中略）文部科学省令で定めるところにより、それぞれ当該学校に在学し、又はこれを卒業した者の学習及び健康の状況を記録した書類を保存しなければならない。



9

効果的・効率的な学習評価

多様な学習評価の方法を取り入れたり、組み合わせたりするなど、評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中に位置付けて実施し、指導を充実させていくこと、また、学習過程全般を通して児童の学習状況を把握し、指導に役立てることが大切です。

効果的・効率的な学習評価には以下のような例があります。

1) ポートフォリオによる評価

学習活動の過程や成果などの記録や作品を児童が主体的・計画的に集積したポートフォリオによる評価方法のことです。活動計画表や自己評価の記録、取材メモや感想、教師や友達、保護者や地域の人々のコメント、写真や報告書などを資料として集積します。

ポートフォリオによる評価を活用すれば

- ・ 継続的に資料をファイルに蓄積することから、問題解決や探究の過程を詳しく把握することができます。
- ・ 振り返りの機会を設ければ、児童が思いや考えを整理したり、解決の見通しをもったりすることができます。
- ・ 保護者等への説明にも活用できます。

留意点として

ただの集積物にならないよう、資料の並べ替えや取捨選択などをして整理します。自己の学習を見直し、振り返るための活用の仕方を指導することにもつながります。

2) パフォーマンス評価

単に知識を暗記・再生するのではなく、知識を文脈において活用できる力が求められるというように、目標のとらえ直しが根底にある評価の考え方です。新しく示された観点である「思考・判断・表現」を評価する際のひとつの評価方法で、一定の課題の中で身に付けた力を複合的に活用することを通して、その力を評価する方法です。

パフォーマンス評価を活用すれば

- ・ ウェビング、成果をまとめたレポートやポスター、発表やインタビューなど活用する力を総合的に見取ることができます。
- ・ 児童が自分で導き出した考え方、作り出した作品や解決の姿などから、個性や独創性を評価し、認めることができます。

留意点として

身に付けた力を活用して学習活動に取り組む児童の姿について、おおよそ満足できる状況を具体的にイメージしておく必要があります。

10

参考資料ホームページアドレス

「学習指導要領」「言語活動の充実」「学習評価」等関係ホームページアドレス

文部科学省

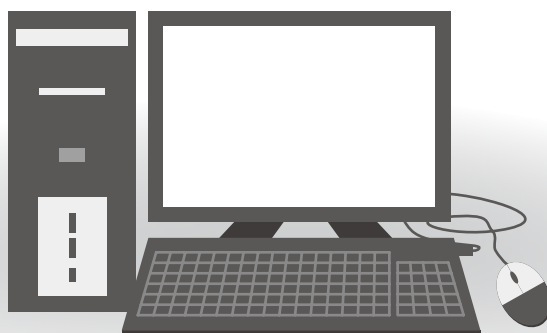
- 小学校学習指導要領解説
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm
- 児童生徒の学習評価の在り方（報告）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm
- 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm
- 言語活動の充実に関する指導事例集
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1300990.htm

国立教育政策研究所

- 評価規準作成のための参考資料【小学校】
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

島根県教育委員会

- 小学校・中学校 教育課程の編成・実施の手引
http://www.pref.shimane.lg.jp/gimukyoiku/index.data/Q_A.pdf
- 学習評価を生かした授業改善，授業づくりのためのハンドブック【小学校】
- 各教科等の指導の重点
島根県教育用ポータルサイト → 島根県教職員用メニュー → 各教科等の指導の重点



**学習評価を生かした
授業改善，授業づくりのための
ハンドブック**

[小学校]

平成 23 年 3 月

発行 島根県教育委員会義務教育課

島根県松江市殿町 1 番地

TEL 0852-22-5576 FAX 0852-22-6026